

授業科目名	英語		担当者	都築玲子			
			実務経験				
教科書	『保育の英会話』 萌文書林 配布プリント	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	こども科	1	通年前期	必修	演習
60							
授業概要	日本以外の言語文化環境を土台とした子どもと保護者に関わることを想定し、子どもならではの英語法や語彙、保育関連の簡単な英会話について学ぶ。日本語を母語としない保護者への適切な情報提供やコミュニケーションについても学ぶ。また、子どもの発達についての基本要項を英語で理解し表現できるようにする。						
学習到達目標	基本的な英語が理解できる 保育園、保育室内の英語、英語表現が理解できる。子供の発達の基本や、子供向けの優しい英語表現が理解できる。簡単な英語で保護者や、保育について表現できる。						
評価方法	出席、授業参加状況、小テスト、課題等を総合的に評価する。						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	Get to know each other, Class Rules, schedule Ice breaking Game ♪Hello song			クラスルール、スケジュール、評価方法を理解する。			
2	現在の英語力評価 ToEIC Sample Test 解答			英語力の評価を行い、現在の力を確認する。			
3	英文法復習1. Be動詞・There is ～・ 代名詞の復習			英文法基礎講座1英語の文のつくりを思い出す。何が主語か何が述語か復習し理解する。			
4	英文法復習2. Be動詞・There is ～代名詞の復習と応用			英文法基礎講座2英語の文のつくりを思い出す。何が主語か何が述語か理解する。			
5	英文法復習3. 一般動詞現在・過去・未来・命令文			英文法基礎講座3一般動詞の時制と、命令文の形と使い方を復習する。			
6	英文法復習4. 一般動詞現在・過去・未来・命令文復習と応用			英文法基礎講座4 一般動詞の時制と、命令文の形と使い方を復習する。			
7	英文法復習5. 助動詞・いろいろな動詞			英文法基礎講座5様々な助動詞の意味を復習する。よく使う動詞の意味を理解する。			
8	英文法復習6. 助動詞・いろいろな動詞復習と応用			英文法基礎講座6 助動詞の意味が理解できる。よく使う動詞と共に使われる文を理解できる。			
9	英文法復習7. 進行形・受け身・現在完了形			英文法基礎講座7 進行形・受け身・現在完了形の作り方を復習する。文の意味が理解できる。			
10	英文法復習8. 進行形・受け身・現在完了形復習と応用			英文法基礎講座8 進行形・受け身・現在完了形の作り方を復習する。文の意味が理解できる。			
11	英文法復習9. 比較の文・接続詞・関係疑問			英文法基礎講座9 比較、接続詞。間接疑問の文の意味が理解できる。			
12	英文法復習10. 比較の文・接続詞・関係疑問復習と応用			英文法基礎講座10 比較、接続詞。間接疑問文の意味が理解でき、つくれる。			
13	英文法復習11. 不定詞・動名詞			英文法基礎講座11 文中の不定詞動名詞を見つけることができる。文の意味が理解できる。			
14	英文法復習12. 不定詞・動名詞復習と応用			英文法基礎講座12 文中の不定詞動名詞を見つけることができる。文の意味が理解できる。			
15	英文法復習13. 後置修飾・関係代名詞			英文法基礎講座13 後置修飾とは何か、後置修飾や、関係代名詞がある分の意味が理解できる。			
16	英文法復習14. 後置修飾・関係代名詞復習と応用			英文法基礎講座14 後置修飾とは何か、後置修飾や、関係代名詞がある分の意味が理解できる。			
17	復習テスト			復習テスト			
18	Unit 1 First Step to Childcare English What's your name? Listen and Practice			自己紹介の英文を読み、英語表現を学ぶ。園の施設の英語表現を覚える。			

19	Introduction (Review) 4. Nursery school ♪ Hello song	こどもと保護者を初めて迎えるときの英語表現を覚える。
20	Unit 2 Welcome to Minato Nursery School 1. It's nice to meet you. 2. Please call him Davy.	初めてこどもや保護者にあつたときの挨拶・自己紹介の英語表現が言える。
21	3. Family Questionnaire 4. Questions about Davy and his family ♪ Hello song ♪ Humpty Dumpty	英文の家庭調査票項目を読み、理解できる。保育室にあるものを英語で表現できる。
22	Unit 3 Time and Numbers ♪ Hickory Dickory Dock	時刻と数を正確にいえるようにする。
23	2. Could you bring a pair of indoor shoes?	園児の所持品を英語でどのように表現するか学ぶ。
24	5. Required Supplies Reading a Notice from school	園からのお知らせを英語で表現するとどのようになるか。比較し表現を学ぶ。
25	Unit 14 Baby Care 1. This must be Davy's sister. 2. Baby's room 3. What do babies do? How do children grow?	誕生から小学校までの子供の発達の英語表現を学ぶ。乳児室の設備小物を英語で理解する。
26	Understanding Basics of ages and stages of Child development	発達の5段階とその特徴を英語で理解する。
27	Unit 5 Davy Meets his classmate Takashi 1. Let's play with Blocks 2. What do you want to do?	子どもたちの遊びの英語表現を覚える。園庭の遊具を英語で表現できる。
28	3. Playground 4. Children on the playground	子どもたちの遊びを英語で表現できる。園庭の遊具を英語で表現できる。
29	Unit 6 Dropping Davy and Picking him up ♪ The farmer in the dell	登園と降園時の会話。子供の様子を伝える表現を学ぶ。
30	3. How was Davy today? 4. How was your day today?	1日のこどもの様子を英語で表現できる。

授業科目名	英語		担当者	都築玲子			
			実務経験				
教科書	『保育の英会話』 萌文書林 配布プリント	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	こども科	1	通年 後期	必修	演習
60							
授業概要	日本以外の言語文化環境を土台とした子どもと保護者に関わることを想定し、子どもならではの英語法や語彙、保育関連の簡単な英会話について学ぶ。日本語を母語としない保護者への適切な情報提供やコミュニケーションについても学ぶ。また、子どもの発達についての基本要項を英語で理解し表現できるようにする。						
学習到達目標	基本的な英語が理解できる 保育園、保育室内の英語、英語表現が理解できる。子供の発達の基本や、子供向けの優しい英語表現が理解できる。簡単な英語で保護者や、保育について表現できる。						
評価方法	出席、授業参加状況、小テスト、課題等を総合的に評価する。						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
31	Unit 7 Jobs at Nursery School 1. Mari sense's daily schedule 2. What does Mari sensei do in the 5-year old's class?			保育者の1日の動きをタイムラインに沿って英語で表現できる。2歳児、0歳児の保育者の仕事を英語で表現できる。			
32	3. What does Yoshio sensei do in the toddlers' class? 4. What does Kiyoko sensei do in the infants' class? 5. Let's try Origami crafts			英語で折り紙を折ると、どのような表現になるか理解する。保護者への連絡帳の記入について学ぶ…保護者とのコミュニケーションツールとして大切なものである。英語での簡潔な表現ができる。			
33	Unit 8 Lunch time 3. Likes and Dislikes 4. Lunch Menu			食事、調理法、嗜好を英語で表現できる。			
34	5. How do you say Oyakodonburi in English? 6. Jane's special recipes			和食を英語で表現できる。英語のレシピを読み理解して調理ができる。			
35	Unit 9 Toilet Dialog 1. Does anyone need to go potty? 2. I wet my pants			子どもの英語での排泄に関する表現を理解する。			
36	3. The parent- Teacher Communication notebook			英語で書かれた連絡帳を理解し、保育園での体の調子、日々の様子を伝える英語表現を表現できる。			
37	Unit10 Fighting 1. Takashi hit my head. 2. That's a good idea.			けんかの場合英語で対応し、納得させることができる。			
38	3. Takashi, Come here. 4. Don't hit him. Don't do this. Don't do that. ♪ Head shoulders knees and toes			英語でbody partsを言える。形を英語で言える。適切に丁寧な表現を使える。			
39	海外のハロウィン			ハロウィンの意味を理解する。英語の歌、クラフト、絵本について知る。			
40	Unit11 Injuries and Illnesses 1. What's the matter?			けがが病気の場合、状況を的確に英語で伝えることができる。			
41	2. I'm really sorry for what happened today. 3. My tummy hurts. 4. If you are concerned about him, consult the doctor.			けが、症状処置についての英語表現を理解する。			
42	5. Common childhood injuries, illnesses and symptoms			子どもがけがをした場合、保護者に英語で適切に伝えられる。			
43	6. First aid and medical care						
44	海外のクリスマス			日本と比較して、海外のクリスマスについて知る。			
45	Unit12 Telephone calls 1. Hello, This is Minato Nursery School.			電話での応対。園の行事への案内をするときの表現を学ぶ。			
46	2. May I take a message?			子どもの状態を保護者に英語で聞ける。			
47	3. May I speak to Mrs. Smith?			電話のメッセージを英語でメモに残せる。			

48	4. Telephone messages	園行事への招待を電話で伝える。
49	Unit13 Field Trip 1. We're going to the zoo next Friday.	遠足の計画、当日の集合場所、持ち物などの連絡を英語で行う。
50	2. If it rains, we will postpone the field trip. ♪ The wheel on the bus	各交通機関の英語表現を学ぶ。また、子供に人気のパソングを英語で歌う。
51	Christmas ornaments making ♪ Christmas Songs	クリスマスオーナメンツを制作する
52	3. Dear Parents, 4. Annual School calendar. 6. Mari-sensei talks about safety and weather.	英文の園行事のお知らせを読み理解する。
53	What are the 5 main areas of child ?	子どもの発達の5領域とは何かを英語で理解する。
54	The value of learning through play for kids under6	乳幼児は遊びを通じて何を学ぶかを英語で理解する。
55	How dose the play deficit impact children's lives?	遊べない場合の子どもへの影響について学ぶ。
56	What are the Benefits of Learning Social Skills as a Child?	子どもたちにとって社会性を学ぶ利点とはなにか英語で理解する。
57	Unit15 Graduation Day 1. Davy, Congratulations! 2. Davy has been so happy with you and his friends here.	英語の修了証書、祝福感謝の表現が理解できる。
58	3. Thank you for all you have done for us!	状況に合わせて、感謝の表現ができる。
59	4. National holidays and celebrations	国民の祝日を英語で表現できる。
60	5. Family Tree, Cross word puzzle	後期学んだことを復習する。

授業科目名	保健体育講義		担当者	沼田尚			
			実務経験	企業でスポーツトレーナーとしての勤務経験がある			
教科書	『保育の中の運動遊び』萌文書林	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	こども科	1	前期	必修	講義
15							
授業概要	現代社会において、心身の健康は、QOL(生活の質)を高めるために欠かすことのできない要素である。健康であるためには、普段から楽しみや生きがいをもち、健康や運動の基礎的知識をもって、実践していくことが必要不可欠である。本授業では、健康の増進に運動が果たす役割を、生理学、運動学、医学的観点から学ぶ。また、運動の技能と獲得を評価支援する観点と方法を学ぶ。						
学習到達目標	幼児期における運動の楽しさや喜びを深く理解できるよう、意欲的に学習に取り組もうとする。運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項及び運動を継続するための理論について理解している。						
評価方法	受講態度…出席状況と授業への取り組む姿勢・態度など。						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	ガイダンス(保健体育講義について)			予習復習として、保健体育講義の目次を読んで内容をまとめておくこと			
2	幼児における運動遊びについて			予習復習として、幼児期の心身の発育・発達と運動遊びを読んで内容をまとめておくこと			
3	保育の中での運動遊びの援助			予習復習として、保育の中での運動遊びの援助を読んで内容をまとめておくこと			
4	運動遊びの具体的な「ねらい」と「内容」について			予習復習として、具体的な「ねらい」と「内容」を読んで内容をまとめておくこと			
5	幼児期の発育・発達の特徴			予習復習として、幼児期の発育・発達を読んで内容をまとめておくこと			
6	人間の脳の発達と精神活動			予習復習として、人間の脳の発達と精神活動を読んで内容をまとめておくこと			
7	幼児の精神運動機能発達の特徴(3~5歳児)			予習復習として、幼児の精神運動機能発達の特徴を読んで内容をまとめておくこと			
8	幼児の運動発達と遊び、運動遊びの意義			予習復習として、幼児の運動発達と遊び、運動遊びの意義を読んで内容をまとめておくこと			
9	子どものからだと運動発達の特徴			予習復習として、子どものからだと運動発達の特徴を読んで内容をまとめておくこと			
10	幼児期の運動と意義			予習復習として、幼児期の運動と意義を読んで内容をまとめておくこと			
11	遊びと運動遊び			予習復習として、遊びと運動遊びを読んで内容をまとめておくこと			
12	運動遊びの教育的意義、運動機能の発達に伴う留意事項			予習復習として、運動遊びの教育的意義、運動機能の発達に伴う留意事項を読んで内容をまとめておくこと			
13	いろいろな運動遊びの基本と保育者の援助			予習復習として、いろいろな運動遊びの基本と保育者の援助を読んで内容をまとめておくこと			
14	大型遊具・固定遊具の遊びと保育者の援助			予習復習として、大型遊具・固定遊具の遊びと保育者の援助を読んで内容をまとめておくこと			
15	サーキットコースの思索・作成・レポート作業まとめ			レポート作成の為に資料・情報の収集			

授業科目名	保健体育実技		担当者	沼田尚			
			実務経験	企業でスポーツトレーナーとしての勤務経験がある			
教科書	教科書は使用しない	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	こども科	1	後期	必修	実技
30							
授業概要	運動・遊び習慣の少ない子供が増えている現代で、子供の遊びを豊かにする為には、幼稚園や保育園での遊びが大変重要となる。幼児が大人になるための基礎力を培い、自我を形成する大切な時期での関わり方について、運動・遊びの観点から、運動の合理的な実践を通して運動の特性に応じた段階的な技能を身につける。						
学習到達目標	幼児期における運動の楽しさや喜びを深く理解できるよう、意欲的に学習に取り組もうとする。運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項及び運動を継続するための理論について理解している。						
評価方法	受講態度…出席状況と授業への取り組む姿勢・態度など。 実技試験・課題レポート…適宜試験及びレポートの提出を求める。						
時数	授業内容			到達目標・学習課題など			
1	オリエンテーション(導入授業)身体について理解する			授業への取り組む姿勢・態度に気を付ける			
2	遊具を使わない遊び・体づくり運動1 一人で行う柔軟運動			体調を整えて、自身の現状を認知し、体力に合わせて実施する			
3	遊具を使わない遊び・体づくり運動2 二人で行う柔軟運動						
4	遊具を使わない遊び・体づくり運動4 自重を用いた体づくり(筋力)1						
5	遊具を使わない遊び・体づくり運動5 自重を用いた体づくり(筋力)2						
6	遊具を使わない遊び・体づくり運動6 自重を用いた体づくり(持久力)1						
7	遊具を使わない遊び・体づくり運動7 二人で行う体づくり(筋力)1						
8	遊具を使わない遊び・体づくり運動8 二人で行う体づくり(筋力)2						
9	競争する遊び・走運動1 走動作の基本を学ぶ						
10	競争する遊び・走運動2 ラダーやハードルを使った遊び						
11	用具類を使った遊び・跳運動1 跳動作の基本を学ぶ 跳躍系運動						
12	用具類を使った遊び・跳運動2 縄を使った遊び						
13	用具類を使った遊び・投運動1 投動作の基本を学ぶ 投動作運動						
14	用具類を使った遊び・投運動2 ボールを使った遊び1フライングディスク						
15	用具類を使った遊び・投運動3 ボールを使った遊び2フライングディスク						
16	用具類を使った遊び・投運動4 ボールを使った遊び3ソフトバレーボール						
17	用具類を使った遊び・投運動5 ボールを使った遊び4ソフトバレーボール						
18	用具類を使った遊び・投運動6 ボールを使った遊び5ソフトバレーボール						
19	用具類を使った遊び・投運動7 ボールを使った遊び6インディアカ						
20	用具類を使った遊び・投運動8 ボールを使った遊び7インディアカ						
21	移動遊具を使った遊び・マット運動1 マットを使った遊び						

22	移動遊具を使った遊び・マット運動2 回転系運動	
23	移動遊具を使った遊び・マット運動3 倒立系運動	
24	複合的な遊び・サーキット運動1 サーキットコースを考える	予習・復習として、サーキットコースをイメージする
25	複合的な遊び・サーキット運動2 サーキットコースを考える	予習・復習として、器具の確認とコースの再考
26	複合的な遊び・サーキット運動3 サーキットコースを作る	予習・復習として、コースを製作する
27	複合的な遊び・サーキット運動4 サーキットコースを作る	
28	複合的な遊び・サーキット運動5 サーキットコースを作る	
29	複合的な遊び・サーキット運動6 サーキットコースを作る	
30	まとめ	予習・復習として、コースを製作する

授業科目名	情報処理		担当者	川村浩之			
			実務経験				
教科書	『つくりたい！がカタチになる 学生のためのOfficeスキル 活用&情報モラル』noa出版	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
時間数		15					
授業概要	テキスト教材を中心に情報システムの発展、コンピュータ(ハードウェア・ソフトウェア)、情報ネットワークなどの仕組みについて理解を深めます。また、パソコンの基本操作、ワープロソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトの基本操作を学習します						
学習到達目標	情報システムの発展と役割について理解を深め、これからの情報化社会を生きる上で必要となる基礎知識と技術を身に付けます						
評価方法	レポート、試験および授業態度						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	情報化社会 第3の波「IT革命」、情報化社会とは、ITの戦略的活用、 社会基盤としての情報システムなど			情報化社会の特徴と今後の発展について理解する			
2	情報セキュリティと情報モラル、個人情報保護			コンピュータウイルスや不正アクセスについて理解する 情報社会の問題点を理解する 個人情報の保護について理解する			
3							
4	コンピュータの発展 計算機の発展史、汎用コンピュータの発展史、パーソナル コンピュータの発展史など			情報化社会をささえるコンピュータの歴史を理解する			
5	ハードウェア コンピュータの五大機能、五大機能と処理手順、中央処 理装置(CPU)、主記憶装置、補助記憶装置、入出力装 置			コンピュータのハードウェア(装置)としくみの基礎を 理解する			
6	ソフトウェア オペレーティングシステム、プログラミング言語、アプリ ケーションソフトウェア			コンピュータを利用するためのソフトウェアの基礎を 理解する			
7	情報とネットワーク 情報の定義、情報通信とデジタル化、情報通信ネット ワークのモデル化			おもにコンピュータで利用される情報と伝える手段 (ネットワーク)について理解する			
8	インターネットとソーシャルメディア			インターネットのしくみとソーシャルメディア関係につ いて理解する			
9	情報が変えていく社会			今後の社会が情報によりどのように変化し、対応しな ければならないか理解する			
10	レポート作成に向けたまとめ						
11	Windowsの基本操作			Windows10の構成やタスクバー、エクスプローラーな どアプリ(ソフトウェア)について理解する			
12	ワープロソフトの基本操作			文字入力の基本も含めて、Word2016の基本操作を 理解する			
13	表計算ソフトの基本操作			Excel2016の基本操作を理解する			
14	プレゼンテーションソフトの基本操作			PowerPoint2016の基本操作を理解する			
15	まとめ						

授業科目名	文章の理解と表現 I		担当者	町田洋介			
			実務経験	企業で個別指導インストラクターとして勤務経験がある			
教科書	『新完全マスター読解 日本語能力試験 N1』『新完全マスター語彙 日本語能力試験 N1』『スリーエーネットワーク	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	こども科	1	通年	必修	講義
30							
授業概要	文章には様式があり目的に合った様式を選択すること、様式に特有な構成や言葉遣いがあることを学び、主として説明や説得のための小論文様式の文章表現について、構成、用語の定義、センテンスとパラグラフの明確化、複数の根拠の提示、妥当な考察を行う技術を身につける。						
学習到達目標	文章の読解、作文、口頭発表のための基礎である論理的思考を養成する。 語彙と表現を豊富にする。分析、推論、理由付けの力を養成する。 上記の力を統合して説得力のある文章で表現する力を養成する。						
評価方法	予習課題、授業時の記述課題、復習課題、期末試験(筆記)を総合して評価する。						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	調べて書く 文献リストの書き方、引用文の書き方について			所定の文献リストの書き方を身につける 引用文の書き方のパターンを身につける			
2							
3	表記上の注意 原稿用紙の使い方、文体、記号の使い方、句読点の打ち方、漢字表記とひらがな表記、表記ゆれ、省略表現			文章を作成するにあたって注意すべき点を知り、推敲する力を身につける			
4							
5							
6							
7							
8	段落構成 形式段落と意味段落、基本の段落構成、段落の分け方			段落構成の基本と段落を分ける意味を知り、段落構成を意識した文章を書ける			
9							
10	対比関係を整理する 対比を用いて書かれた文章の読み取り 対比構造を持つ文章の作成			文章の構造を捉えながら、情報を整理して読み取ることができる 構造を意識した文章を書ける			
11							
12							
13	言い換えを使いこなす 言い換え表現を用いた文章の読み取り 言い換え表現を用いた文章の作成			言い換える前の表現と後の表現を正しく把握できる さまざまな事物、表現の具体化・抽象化ができる			
14							
15							
16	因果関係を捉える 筆者の主張の根拠や、ある結果の原因にあたる部分の読み取り、因果関係のある文章の作成			根拠や原因を正しく読み取ることができる 因果関係の明確な文章を書ける			
17							
18							
19	短文読解 主張の中心の読み取り 文章中からの必要な情報の読み取り			さまざまなタイプの問題を解くことで、文章の構造を捉えながら、必要な情報を正確に読み取ることができる			
20							
21							

22		
23		
24	中文の読解と作成 400～600字の文章の読み取り 400～800字の文章の作成	文章量が増えても、構造を捉えながら、必要な情報を正確に読み取ることができる 構成を意識し、説得力のある文章を作成することができる
25		
26		
27		
28		
29	長文の読解と作成 1000～1200字の文章の読み取り 1000～1200字の文章の作成	
30	まとめ	

授業科目名	憲法		担当者	薄井淳			
			実務経験	法律事務所で弁護士としての勤務経験がある			
教科書	『日本国憲法 大阪おばちゃん語訳』文藝春秋BOOKS	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	こども科	1	前期	必修	講義
30							
授業概要	日本国憲法の全体像を理解できるようにする。日本国憲法の規定を確認し、人権保障に関して判例・学説を基に様々な解釈を、統治機構に関しては条文を中心に解説をする。						
学習到達目標	憲法が我々の生活にどうかかわっているかを理解すること						
評価方法	レポート及び試験						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	憲法と立憲主義・日本国憲法			日本国憲法の前提及び全体像の理解			
2	憲法と立憲主義・日本国憲法			日本国憲法の前提及び全体像の理解			
3	日本国憲法の構成と基本原理			日本国憲法の前提及び全体像の理解			
4	日本国憲法の構成と基本原理			日本国憲法の前提及び全体像の理解			
5	基本的人権の保障・包括的基本権と法の下での平等			人権保障の全体像の理解			
6	基本的人権の保障・包括的基本権と法の下での平等			人権保障の全体像の理解			
7	精神的自由権			各人権の概要の理解			
8	精神的自由権			各人権の概要の理解			
9	身体的自由権			各人権の概要の理解			
10	身体的自由権			各人権の概要の理解			
11	経済的自由権			各人権の概要の理解			
12	経済的自由権			各人権の概要の理解			
13	社会権			各人権の概要の理解			
14	社会権			各人権の概要の理解			
15	参政権と国務請求権			各人権の概要の理解			
16	参政権と国務請求権			各人権の概要の理解			
17	統治機構の基本原則			統治機構の全体像の理解			
18	統治機構の基本原則			統治機構の全体像の理解			
19	国会と立法権			統治機構の各論的理解			
20	国会と立法権			統治機構の各論的理解			
21	内閣と行政権			統治機構の各論的理解			

22	内閣と行政権	統治機構の各論的理解
23	裁判所と司法権	統治機構の各論的理解
24	裁判所と司法権	統治機構の各論的理解
25	財政	統治機構の各論的理解
26	財政	統治機構の各論的理解
27	地方自治	統治機構の各論的理解
28	地方自治	統治機構の各論的理解
29	憲法改正	統治機構の各論的理解
30	憲法改正	統治機構の各論的理解

授業科目名	保育原理		担当者	阿部美帆			
			実務経験	保育所で保育士としての勤務経験がある			
教科書	『つながる保育原理』みらい 『保育所保育指針解説書』 『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領 幼稚園教育 要領 保育所保育指針』	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	こども科	1	前期	必修	講義
		30					
授業概要	保育の意義、目的、法令、保育指針に示されている実践の内容や方法に関する基本的理解を目指す。また、現在の保育の思想や実践を歴史的・社会的文脈に位置付けつつ、子ども理解に基づく省察的な保育を行う意義について理解する。						
学習到達目標	・保育の意義及び目的について理解する ・保育に関する法令及び制度を理解する ・保育士保育指針における保育の基本について理解する ・保育の思想と歴史的変遷について理解する ・保育の現状と課題について理解する						
評価方法	・演習課題の提出、小テスト、期末筆記試験						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	保育原理の意義、保育の理念と概念、保育所の目的			保育の目的や定義、保育士の役割、これからの保育に求められているもの、保育に関する法令と制度を説明できる			
2	保育に関連する諸法令						
3	一人一人の特性に応じた保育 発達の原因			発達の原理、乳幼児のもつ能力、学びの姿から個に応じた保育や愛着の重要性を説明できる			
4	子どもの姿にみられる発達 愛着						
5	主な保育施設(保育所、幼稚園、認定こども園)			主な保育施設で行われている共通に大切にすることを理解し、各施設について説明できる			
6	主な保育施設(地域型保育)						
7	保育所保育指針の制度的位置づけ			保育所保育指針そのものの意義と内容を概説できるとともに、保育の基本的な考え方を説明できる			
8	養護と教育の一体性 環境を通じた保育						
9	保育のねらいと内容と方法(3歳未満児の現状)			「領域」と「視点」、「ねらい」と「内容」の意味を説明でき、3歳未満児の保育のねらいや重要点を説明できる			
10	乳児の保育のねらい 1歳以上3歳未満児の保育のねらい						
11	保育のねらいと内容と方法(3歳以上児)			3歳以上児の保育の現状、ねらいと内容について説明できる			
12	エピソードから考える、3つの柱、10の姿						
13	幼児期の終わりまでに育てほしい姿			「幼児期の終わりまでに育てほしい姿」「育みたい資質・能力」のとらえ方と「5領域」とのつながり、小学校との接続について説明できる			
14	幼保こ小の連続と保護者						
15	保育の計画 全体的な計画 指導計画 長期・短期の計画			保育計画の重要性と種類、PDCAサイクルと保育記録の重要性について説明できる			
16	PDCAサイクル カリキュラム・マネジメント						
17	保育者に求められる専門性 倫理観			保育者に求められる専門性、キャリアアップと保育の質の向上のための取り組みや研修の必要性を説明できる			
18	研修の必要性と求められる資質						
19	子育てをめぐる家庭と社会の状況 少子化 待機児童 虐待 貧困			子育て家庭の現状と課題についてと、子育て支援に関する基本的事項について説明できる			
20	保育における子育て支援 保育所利用の保護者 地域の保護者						
21	海外の保育思想と歴史 古代ギリシャ ローマ 中世 ヨーロッパ						

22	海外の保育思想と歴史 近代ヨーロッパ	諸外国における保育思想や歴史と、実践の概要を説明できる
23	海外の保育思想と歴史 現代の保育・教育思想	
24	日本の保育思想と歴史 古代～江戸時代	日本における保育思想や歴史と、実践の概要を説明できる
25	日本の保育思想と歴史 江戸時代～明治時代	
26	日本の保育思想と歴史 明治時代～昭和20年(終戦)	
27	日本の保育思想と歴史 昭和20年8月15日～現在	
28	世界の保育の現状と課題	諸外国の保育の現状と課題について説明できる
29	子ども・子育て支援新制度 子ども・保育関連法令の改正	日本の保育の現状と課題についてと、子ども・子育て支援新制度や幼保一元化について説明できる
30	子ども・保育に関連する日本の現状と課題	

授業科目名	教育原理		担当者	町田洋介			
			実務経験				
教科書	『最新保育士養成講座 教育原理』全国社会福祉協議会	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	こども科	1	前期	必修	講義
30							
授業概要	教育の意義、目的を広義に理解し、生涯発達を視野に入れつつ特に乳幼児期学童期の教育に関してその思想、制度、方法と歴史的変遷を理解する。さらに、教育実践の基礎理論と様々な取り組みを理解し、保育者に求められる一体的な養護と教育についての理解を深める。						
学習到達目標	1.教育の意義、思想、制度、実践についての基本的知識を身につける 2.教育に関する理論や教育の現状と課題について理解する 3.以上をもとにした教育観を構築する						
評価方法	小テスト、課題の提出、期末試験による						
時数	授業内容			到達目標・学習課題など			
1	オリエンテーション 教育の定義			現在の学生自身の教育観を問いつつ、教育とは何かについて理解する。			
2							
3	教育の意義・目的			教育、保育に関連する法令から、その目的、理念についての知識を得る。			
4							
5							
6							
7	教育と子ども家庭福祉			教育資源として家庭や地域を捉え、その活用について理解する。			
8							
9	教育思想と歴史① 諸外国の教育思想と歴史			教育思想家の思想を中心に学ぶことで、現代の教育・保育の基本思想、実践活動の背景にある基本理念についての知識を得る。			
10							
11	教育思想と歴史② 日本の教育思想と歴史						
12							
13	教育思想と歴史③ 子ども観と教育観の変遷						
14							
15	教育の制度 教育制度の基礎、教育法規・教育行政の基礎			法令をはじめ現行の教育制度に関する資料を概観し、理解を深める。			
16							
17	教育の実践と展開 教育実践の基礎、教育の方法			教育の方法や教育実践のサイクルについて学び、教育の基本的な枠組みについて理解する。			
18							
19	諸外国の教育制度と実践① 諸外国の教育制度			諸外国の教育制度や、教育実践の多様な取り組みについて学ぶ。			
20							
21	諸外国の教育制度と実践②						

22	教育実践の多様な取り組み	
23	生涯学習社会における教育の課題①	生涯学習についての知見を得ることで、生涯学び続ける中での乳幼児期の教育の在り方について問い直す。また、現代社会における教育の現状について理解する。
24	生涯学習社会と教育	
25	生涯学習社会における教育の課題②	
26	日本における生涯学習	
27	生涯学習社会における教育の課題③	
28	現代の教育課題	
29	まとめ	授業内容全体について復習し、理解を深める。
30		

授業科目名	子ども家庭福祉		担当者	町田洋介			
			実務経験				
教科書	『新基本保育シリーズ 子ども家庭福祉』中央法規出版 『保育福祉小六法 2023年版』みらい 『ひと目で分かる保育者のための児童家庭福祉データブック2023』中央法規出版	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	こども科	1	前期	必修	講義
		30					
授業概要	子どもの人権擁護を根幹とし、子ども家庭福祉の理念、法、制度、その歴史的変遷を理解する。現代社会が対象としている子ども家庭福祉の課題群と対応について具体的に学ぶことで、保育者として直面しうる問題を的確に把握し適切な対処につなげる必要、意義を理解する。						
学習到達目標	1.現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷、人権擁護について理解する。 2.子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。 3.子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。						
評価方法	講義中の小テスト、レポート、期末試験での総合評価						
時数	授業内容			到達目標・学習課題など			
1	子ども家庭福祉の理念と概念			現代の子どもを取り巻く環境、子どもがもつ権利と子どもの福祉の成り立ちについて理解する			
2							
3	子ども家庭福祉の歴史的変遷と諸外国の動向						
4							
5	子どもの人権擁護						
6							
7	子ども家庭福祉の制度と実施体制			児童に関わる専門職及び児童福祉施設、行政について理解する			
8							
9	子ども家庭福祉の施設と専門職						
10							
11	少子化と地域子育て支援			子ども家庭福祉の現状と課題について理解する			
12							
13	母子保健と子どもの健全育成						
14							
15	多様なニーズへの対応						
16							
17	子どもへの虐待・ドメスティックバイオレンスとその防止						
18							
19	貧困家庭、外国籍の子どもとその家庭への対応						
20							

21	社会的養護	
22		
23	障害のある子どもへの対応	
24		
25	非行少年等への対応	
26		
27	次世代育成支援と子ども家庭福祉の推進	これまでの学びを踏まえながら、子ども家庭福祉の 動向と展望について考える
28		
29	地域における連携・協働とネットワーク	
30		

授業科目名	社会福祉		担当者	横山英史			
			実務経験				
教科書	『生活事例からはじめる 社会福祉』青鞥社	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	こども科	1	前期	必修	講義
30							
授業概要	現代社会における社会福祉の理念と概要、今日までの歴史の変遷を社会情勢の変化と共に理解する。次に、対象とする領域、制度、法体系、行財政と実施機関、専門職と援助技術、動向について広範に学ぶことで、社会福祉における保育の位置を理解する。						
学習到達目標	保育士として基盤となる社会福祉の基本的な考え—ノーマライゼーション、ソーシャルインクルージョン—について検討する。社会福祉関連の諸制度、サービスについて理解し、様々な生活上の困難、問題にソーシャルワークの技法を活用し対処できるようになる。						
評価方法	・期末試験・・・70% ・講義中のレポート、話し合いなどへの参加の度合い・・・30%						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	社会福祉とは(1)－オリエンテーション、身近に存在する問題への気づき－			社会福祉、障害(碍)の基本的な捉え方を理解する。また、社会福祉が存在する意義や、ノーマライゼーション、ソーシャルインクルージョンの理念をいかに具現化していくか検討していく。			
2	社会福祉とは(2)－「障害」の表記、捉え方を通じた検討－						
3	社会保障、社会福祉が必要な状況についての検討／制度の意義について						
4	社会福祉の理念(1)－ノーマライゼーション、ソーシャルインクルージョン－						
5	社会福祉の理念(2)－発達保障など－ 理念の具現化に向けて						
6	社会福祉制度の基礎 社会福祉の歴史 イギリス(1)			イギリス、日本を中心に社会福祉がいかに形成されてきたのかを踏まえ、現在に通じる課題を明らかにしていく。また、障害当事者の生活や思いを通し、どのような対応が求められるか考えていく。			
7	社会福祉の歴史 イギリス(2)日本(1) VTR学習－盲ろう者の生活－						
8	社会福祉の歴史 日本(2) その他の国々 社会福祉のニーズ－概要、類型－						
9	社会福祉の法律－生活保護法、児童福祉法、身体障害者福祉法－			社会福祉の法律や機関、施設、事業への理解を深める。実際に問題を抱えた利用者とそれらを結びつけ、問題の軽減、解決が出来るようになることを目指す。また、社会福祉を担う専門職や財源、権利擁護に関わる機関について理解し、現状や課題への考察を行う。			
10	社会福祉の法律－社会福祉法、介護保険法、精神保健福祉法、障害者総合支援法－						
11	社会福祉を担う機関－福祉事務所、児童相談所、障害者更生相談所－						
12	社会福祉を担う機関、施設－保育所、社会福祉協議会、共同募金会、民生委員－						
13	社会福祉事業の類型－第一種、第二種社会福祉事業－						
14	社会福祉を担う専門職						
15	社会福祉の財源－配分、負担と給付－						
16	社会参加、自立・自律支援						
17	権利擁護について－苦情解決、運営適正化委員会－小テスト						
18	社会福祉の動向と課題(1)－少子高齢化と国際化 人々の意識、地域社会の変化－						
19	社会福祉の動向と課題(2)－社会的排除、差別－人権と対立する思想			社会福祉の動向と課題を整理し、求められる対応を考えていく。人権と対立する思想を通し、社会福祉の在るべき姿を考える。			
20	レポートを踏まえた話し合い 利他的行為論について						
21	相談援助の理論、意義						

22	相談援助の機能、対象	
23	相談援助の基本原則	
24	相談援助の過程(1)	
25	相談援助の過程(2)	相談援助のについての基本原則を理解し、その技法について学ぶことを通して、地域の社会福祉を担う人材として必要な援助について考えていく。
26	相談援助技術-他者理解の観点-	
27	相談援助技術-基本的な面接技法-	
28	グループを活用した援助の過程、方法、技術	
29	地域への援助の過程、方法、技術	
30	講義のまとめ 利他的行為論 期末試験についての説明	

授業科目名	子ども家庭支援論		担当者	大友美悠希								
			実務経験	乳児院で保育士としての勤務経験がある								
教科書	『子ども家庭支援論 保育の専門性を子育て家庭の支援に生かす』萌文書林	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法					
		2										
		時間数	こども科	1	後期	必修	講義					
	30											
授業概要	子育て家庭に対する支援の意義と目的、対象を理解し、保育の専門性を生かした支援について理解する。地域資源との関係づくり等、現代的な支援の充実についても学ぶ。カウンセリングマインドを学び支援の方法・基本的な態度を養い、科目「子育て支援」につながる基礎作りを行う。											
学習到達目標	社会的養護の意義と歴史の変遷、制度や実施体系等について理解する。また、児童の権利擁護について理解するとともに、社会的養護における児童の人権擁護及び自立支援等について理解する。											
評価方法	講義中の小テスト、授業への取り組み、期末試験での総合評価											
時数	授業内容		到達目標・学習課題など									
1	子ども家庭支援の意義と必要性		子ども家庭支援の意義と役割について理解する									
2												
3												
4	子ども家庭支援の目的と機能		保育の現場における家庭支援について学び、実践方法を考えていく									
5	保育の専門性を生かした子ども家庭支援とその意義											
6												
7	子どもの育ちの喜びの共有											
8												
9	保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援											
10												
11	保育士に求められる基本的態度											
12												
13	家庭の状況に応じた支援							子育て家庭に対する支援体制について理解する				
14												
15	地域の資源の活用と自治体・関係機関との連携・協力											
16												
17	子育て家庭の福祉を図るための社会資源											
18												
19	子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進											
20												
21	子ども家庭支援の内容と対象											

22	子ども家庭支援の内容について	
23	保育所等を利用する子どもの家庭への支援	
24		
25	地域の子育て家庭への支援	
26		
27	要保護児童等及びその家庭に対する支援	
28		
29	子ども家庭支援に関する現状と課題	現在の子ども家庭支援における課題について理解を深め、保育士としての支援の在り方について考える
30		

授業科目名	社会的養護Ⅰ		担当者	石神美環子			
			実務経験	宮城県子ども教育相談の電話相談員として勤務経験がある			
教科書	『新基本保育シリーズ 社会的養護Ⅰ』中央法規出版	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	こども科	1	後期	必修	講義
30							
授業概要	家庭での子育てと社会的養護を対置しながら、子ども家庭福祉における社会的養護の意義、歴史の変遷、対象、制度、実施体系について理解する。施設における家庭的養護のみならず養子縁組や里親などの家庭養護についても今日的課題として学ぶ。						
学習到達目標	1.子どもの権利擁護を理解する。 2.社会的養護とは何かを理解する。						
評価方法	出席状況及び授業態度、提出課題、期末試験の総合評価						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	社会的養護の理念と概念			社会的養護とは何かを理解する			
2							
3	社会的養護の歴史の変遷			社会的養護の歴史の変遷について学ぶ			
4							
5	子どもの人権擁護と社会的養護			子どもの権利擁護と虐待について理解する			
6							
7	社会的養護の基本原則			児童福祉法と新しい社会的養育ビジョンを知る			
8							
9	社会的養護における保育士等の倫理と責務			専門職としての倫理とは何かを考える			
10							
11	社会的養護の制度と法体系			社会的養護の法的根拠と関連法を学ぶ			
12							
13	社会的養護の仕組みと実施体系			社会的養護の仕組みについて学ぶ ソーシャルワークの在り方を知る			
14							
15	社会的養護の対象			児童虐待と社会的養護の関係、虐待予防、支援の在り方を理解する			
16							
17	家庭養護と施設養護			家庭養護と施設養護のメリットデメリットを知る			
18							
19	社会的養護に関わる専門職			様々な児童福祉施設における職種と内容			
20							
21	社会的養護に関する社会的状況			社会的養護における虐待への対応について理解する			

22	社会的養護に関する社会的状況	社会的養護における虐待への対応について理解する
23	施設等の運営管理	施設の運営と安定した生活環境の保障について考える
24		
25	被措置児童等の虐待防止	被措置児童の虐待防止についてと現状、課題を知る
26		
27	社会的養護と地域福祉	社会的養護と地域福祉の現状と課題について考える
28		
29	まとめ	まとめ
30		

授業科目名	保育者論		担当者	伊藤 基			
			実務経験	保育所で保育士として勤務経験がある			
教科書	『今に生きる保育者論第4版』みらい	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	こども科	1	前期	必修	講義
30							
授業概要	保育の実践者としての具体的な職務内容、免許資格制度的位置づけ、求められる倫理などの社会的要請を理解したうえで、保育者の専門性・保育の資質の向上に何が求められているのか。また、それらの向上を支えるPDCAサイクルと研修制度がどのようなものかについて学ぶ。						
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者に求められているものを理解する ・保育士の継続的な資質の向上の必要性が理解できているか。 ・現代の子どもたちの取り巻く環境や、諸外国の保育における現状を理解しているか。 						
評価方法	期末筆記試験						
時数	授業内容		到達目標・学習課題など				
1	●保育とは何か		保育の定義・意義、保育とはなにを理解をする				
2							
3	●保育者に求められる法律・制度が求める資質・能力		今の保育者に求められる資質・能力について理解をする。				
4							
5	●保育者の制度的な位置づけ		保育士・幼稚園教諭の制度的な位置づけについて理解をし、保育所・幼稚園の設置基準を学ぶ				
6							
7	●保育者養成の歴史		日本における保育の展開のについて理解をし、戦後の保育者の起源を理解する。				
8							
9	●指導計画の必要性		見通しを持った保育を進めるための、保育計画の必要性について理解をする。				
10							
11	●保育者に求められる資質とは		現代の保育者に求められる資質、専門性について理解をする。				
12							
13	●職員間の連携・関係機関との連携		保育者として職員間での連携の必要性を理解し、子どもを中心とした関係機関との連携について理解する。				
14							
15	●保育者の資質向上とキャリア		経験年数や役職などで、課題を見つけ、知識や経験値の向上が必要となることの理解する。				
16							
17	●子どもの育ちの危機と子育て支援		現代の子どもたち取り巻く環境の変化と、危機について理解を深め、気になる子どもへの配慮の仕方について理解をする。				
18							
19							
20							
21	●現代社会の変化と保育者の仕事の課題		多様化する現代社会の変化に元づいた保育者の仕事の変化や課題についての理解をする。				

22		
23	●資料にみる保育者の姿	様々なデータから見える現代の保育者と、社会的役割について理解をする。
24		
25		
26		
27	●諸外国の保育者	諸外国における子どもを取り巻く環境の変化や、保育者へ求められている課題への理解
28		
29	●より良い保育者になるために	これまでの学びのまとめ
30		

授業科目名	保育の心理学 I		担当者	町田洋介			
			実務経験				
教科書	『子どもとかかわる人のための心理学』萌文書林 『発達がわかれば保育ができる』ひかりのくに	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	こども科	1	前期	必修	講義
	30						
授業概要	発達に関する心理学的知見を学び、乳幼児期を中心に子どもの特性を理解するとともに、生涯にわたる発達について学ぶ。また、子どもの姿を捉えそれに即した保育の方法を考え実践するときに、心理学的視点や知見がどのように活かされているのかを学ぶ。						
学習到達目標	1.保育実践に関わる心理学の基本的知識を身につける。 2.子どもの発達を心理的な側面から捉えることとその重要性を理解する。						
評価方法	小テスト、課題の提出、期末試験による						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	心理学とは何か			心理学とは何かについて、具体的な事例を交えて学ぶ			
2	発達心理学の定義、発達心理学で学ぶ内容の概要			発達、発達心理学とは何かを理解する			
3	子どもを理解する方法と評価(1) 観察法			保育にかかわる評価の目的、方法、基準について学ぶ			
4	子どもを理解する方法と評価(2) 検査法						
5	発達における遺伝と環境の影響			発達を規定する要因、発達の原理について理解する			
6	身体発達の原理						
7	生涯発達と発達段階の区分			生涯発達という視点を理解し、生涯に渡る発達の課題について学ぶ			
8	エリクソンとハヴィガーストの発達課題						
9	乳児期の発達(1) 胎児期からの身体発達、原始反射			発達段階毎の発達の特徴を捉え、それぞれの時期の課題について学ぶ			
10	乳児期の発達(2) 認知、コミュニケーションの発達						
11	幼児期の発達(1) 身体・運動機能の発達						
12	幼児期の発達(2) ピアジェの理論						
13	幼児期の発達(3) 表象機能の発達						
14	幼児期の発達(4) 言葉の発達						
15	幼児期の発達(5) 情緒の発達						
16	幼児期の発達(6) 社会性の発達						
17	児童期の発達(1) 身体・運動機能、社会性の発達						
18	児童期の発達(2) 道徳の発達、知能とは						
19	青年期の発達 アイデンティティの確立						
20	成人期の発達 親密性とアイデンティティの再構築						
21	老年期の発達(1) 人生の振り返りと自我の統合						

22	老年期の発達(2) 加齢による変化と死の受容	
23	愛着の発達(1) 愛着理論と愛着の形成	愛着、遊び、自我について、乳幼児期全体を通した発達について学ぶ
24	愛着の発達(2) エインズワースのストレンジシチュエーション法	
25	遊びの発達(1) 遊びの定義とその理論	
26	遊びの発達(2) 遊びの発達と社会性の獲得	
27	自我の発達(1) 自己コントロール力の発達	
28	自我の発達(2) 心の理論の発達	
29	子どもの発達に応じた保育(1) 3歳未満児	発達心理学の知見を生かした保育実践について学ぶ
30	子どもの発達に応じた保育(2) 3歳以上児	

授業科目名	保育の心理学Ⅱ		担当者	薄井啓子			
			実務経験	小中学校高校でスクールカウンセラーとして勤務経験がある			
教科書	『保育のためのやさしい教育心理学』ナカニシヤ出版	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	こども科	1	通年前期	必修	演習
60							
授業概要	乳幼児期から青年期にかけての育ちについて、保育実践に活かせる発達心理学・教育心理学的理論を事例を交えて解説する。						
学習到達目標	発達に関する代表的な理論を踏まえた上で、教育における発達の意義と理解を土台にして、子どもの主体的な学習を支える学習の仕組みや動機付け、指導方法、実践活動について理解する。						
評価方法	期末試験、授業内提出物、授業態度を総合して評価する。						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	オリエンテーション／授業の進め方や注意点について						
2	「発達」とは何か			発達理論の概要を理解する			
3	乳児期の発達			運動、愛着、認知、言語の発達について理解する			
4							
5	幼児期の発達			認知、遊び、道徳性の発達について理解する			
6							
7	児童期・青年期の発達			認知、対人関係、自己意識の発達について理解する			
8							
9	発達のまとめ			各年代の発達の特徴を理解する			
10	学習理論について			古典的條件付けについて理解する			
11				古典的條件付けについて理解する			
12				試行錯誤学習について理解する			
13				オペラント条件付けについて理解する			
14				オペラント条件付けについて理解する			
15				洞察学習・サイン学習について理解する			
16				観察学習について理解する			
17	知能について			知能とは何かを理解する			
18				知能を測る方法について知る			
19	記憶について			記憶の仕組みについて理解する			
20				記憶方略と忘却について理解する			
21				記憶の発達的变化について理解する			

22		欲求の段階説について理解する
23		達成動機について理解する
24	意欲について	原因帰属について理解する
25		学習性無力感について理解する
26		内発的動機づけ・外発的動機づけについて理解する
27		コンピテンス、自己効力感について理解する
28	子どもの意欲を引き出す指導の在り方	ピグマリオン効果について理解する
29		保育場面でどのように意欲を引き出すのかを理解する
30	まとめと期末試験対策	

授業科目名	保育の心理学Ⅱ		担当者	薄井啓子							
			実務経験	小中学校高校でスクールカウンセラーとして勤務経験がある							
教科書	『保育のためのやさしい教育心理学』ナカニシヤ出版	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法				
		2									
		時間数	こども科	1	通年後期	必修	演習				
60											
授業概要	乳幼児期から青年期にかけての育ちについて、発達心理学・教育心理学の観点から解説する。										
学習到達目標	発達に関する代表的な理論を踏まえた上で、教育における発達の意義と理解を土台にして、子どもの主体的な学習を支える学習の仕組みや動機付け、指導方法、実践活動について理解する。										
評価方法	期末試験、授業内提出物、授業態度を総合して評価する。										
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など							
31	子どもの学びの援助			発見学習、有意味受容学習、プログラム学習、共同学習について理解する							
32											
33											
34											
35								適正処遇相互作用、発達の最近接領域について理解する			
36								子どもの学びを支援するための保育者のスキルについて理解する			
37	教育評価			教育場面で行われている評価の方法について理解する							
38				評価の基準や方法について理解する							
39	子どもを理解する方法			観察法について理解する							
40											
41				検査法について理解する							
42				PDCAサイクルによる評価を保育に活かす方法について理解する							
43	クラス運営			子どもと集団とのかかわりについて理解する							
44				クラス運営について理解する							
45				保育者の資質について考える							
46				保育者の資質について考える							
47	パーソナリティの理解			パーソナリティの理論について理解する							
48				パーソナリティ測定について知る							
49	発達と心の問題への対応			知的障がいについて理解する							
50				発達障がいについて理解する							
51				発達障がいについて理解する							

52	発達上の問題への対応	障がいある子どもへの配慮と対応について理解する
53		心の問題について理解する
54		心の問題への対応を理解する
55	早期教育について	子どもを取り巻く「早期教育」の状況について考える
56		
57	小学校入学後の子ども	児童期以降の子どもを理解したうえで、保育者として必要なかわりについて考える。
58		
59	まとめと期末試験対策	
60		

授業科目名	子どもの理解と援助		担当者	伊藤基			
			実務経験	保育所で保育士として勤務経験がある			
教科書	『改訂 子ども理解と保育実践』萌文書林	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	こども科	1	後期	必修	演習
30							
授業概要	科目「保育の心理学」において学んだことを基に、子どもの生活や遊びに内在する欲求・動機・思考・学習・葛藤・つまずきなどの心理過程を取り出して記述する意義と具体的な方法を学ぶ。これによって子どもを共感的に理解し理解に基づいた保育を実践する能力を高める。						
学習到達目標	・実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義を理解する ・子どもの体験や学びの過程を理解するための基本的な考え方を理解する ・子どもを理解するための具体的な方法を理解する ・子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解						
評価方法	・期末の筆記試験 ・授業内演習の記述課題						
時数	授業内容			到達目標・学習課題など			
1	環境を通じた教育と子ども理解 子ども理解の重要性			保育の基本としての子ども理解の意義と重要性、一般的な発達への理解と一人一人の心身の状況を理解することとの関わりがわかる			
2	保育者の専門性としての子ども理解						
3	子どもと保育者の相互理解						
4	個の尊重と集団の中での育ち合い						
5	子どもの発達の特性と発達を促すもの 一人一人の発達と遊び						
6	理解と援助の態度と姿勢① 肯定的共感的に見る			子どもを理解するための姿勢、視点、援助の基本姿勢について理解する			
7	理解と援助の態度と姿勢② 行為の意味を考える 同じ場と活動の中にある一人一人にとっての今と意味						
8	保育者の意図に収まらない子どもの行動 保育者に対する期待の変化						
9	子ども同士の説得と変容・なぜの理由は合理的とは限らない						
10	理解と援助の態度と姿勢③ 長い目で一体的に見る						
11	理解と援助の態度と姿勢④ カウンセリングマインド			子どもを理解するための着眼・解釈・記述、他の保育者や家庭との共有・連携、小学校との連携について理解する			
12	子ども理解の方法① 観察						
13	子ども理解の方法② 共に活動しながら						
14	子ども理解の方法③ 記録を通して						
15	子ども理解の方法④ 保育者間の情報共有と学び合い						
16							
17	子ども理解の方法⑤ 家庭との情報共有と連携						
18	子ども理解の方法⑥ 省察・評価 児童保育要録と就学連携						
19	保育者の援助① 遊びの場面 自他の違いへの気づきと自己形成 一緒に遊ぶための気持ちと葛藤						
20							

21	力関係と遊び方	様々な保育場面の記録を元に、子どもの姿と内面を 推し量り、子ども理解と援助の妥当性を高める
22		
23		
24	保育者の援助② 生活の場面 助力を拒む	
25	心もち・理由・結果	
26		
27	保育者の援助③ 集団での活動 同一や一斉はどこまで必要なのか？	
28	能力差	
29	保育者の援助④ 特別な配慮を要する子への援助 障害と未熟の見極めの難しさ	
30		

授業科目名	子どもの保健		担当者	尾形由美子			
			実務経験	病院で看護職として勤務経験がある			
教科書	『授業で現場で役に立つ！ 子どもの保健テキスト』診断 と治療社	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	こども科	1	前期	必修	講義
30							
授業概要	子どもの身体、精神、生理、運動の発達を理解し、保育における生命の保持と情緒の安定、心身の健康増進について理解する。子どもの健康状態を把握する方法、子どもに頻発する疾病とその予防、集団感染、慢性疾患と対応について理解する。						
学習到達目標	1、子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。2、子どもの身体的な発育・発達と保健について理解する。3、子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。4、子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。						
評価方法	定期試験90%、平常点10%						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	子どもの健康と保健① 保健活動の意義と目的 ・子どもの保健とは、保健で扱うこと、保育所保育指針での取り扱い			<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの健康に保健活動はどのように役立ってきたのかを理解する。 ・子どもの健康活動で扱う範囲を知る。 ・子どもの保健の知識を子どもの保育でどのように役立てるかを理解する。 			
2							
3							
4							
5	子どもの健康と保健② 健康の概念と健康指標 ・子どもの出生と母子保健 ・胎児の発育、出生の過程、新生児、母子保健の意義			<ul style="list-style-type: none"> ・母子保健が子どもの健康を守るために果たしている意義について理解する。 ・胎児の発育と出生の過程と影響する因子を学ぶ ・新生児の特徴を知る。 			
6							
7							
8							
9							
10	子どもの健康と保健③ 現代社会における子どもの健康に関する現状と課題			<ul style="list-style-type: none"> ・統計から子どもの健康に関する現状を知る。 ・子どもの健康に関する時代の推移を理解し、現代社会における現状と課題を考える。 			
11							
12							
13	地域における保健活動と子ども虐待防止 ・子どもの虐待の現状、対応、防止への取り組み			<ul style="list-style-type: none"> ・地域の子ども健康支援において、どのような活動を行っているかを理解する。 ・子どもの虐待の現状を理解し、虐待防止の取り組みを考える。 			
14							
15	子どもの発育・発達と保健 子どもの身体発育と運動機能の発達 ・乳幼児の身体測定、標準的な身体発育、発育評価 ・身体発育に影響を与える因子 ・子どもの運動機能・生理機能の発達			<ul style="list-style-type: none"> ・こどもの正しい身体計測の仕方を知る。 ・我が国の子どもの身体発育の標準と評価の仕方について知る。 ・身体発育や発達に影響するものを理解する。 ・子どもと大人の生理機能の違いを理解する。 ・生理機能の発達に応じた生活習慣を理解する。 			
16							
17							
18							
19							
20	子どもの健康状態の観察と体調不良時の把握 ・子どもの健康状態の把握			<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの健康状態の把握の方法について学ぶ。 			

21	<p>子どもの健康状態の把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体調不良時によくみられる症状 (発熱・おう吐・下痢・便秘・鼻水・発疹等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの体調不良時の主な症状とその評価対応について学ぶ。
22		
23		
24	<p>子どもの病気①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・救急疾患の特徴と適切な対応 ・保護者との情報共有と家族の支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの救急疾患の特徴とその対応を理解する。 ・重症児の判断と子どもの心肺蘇生を理解する。 ・保護者との情報共有は、具体的にどのように行うか理解する。家族への支援や子育て支援の実際を理解する。
25		
26		
27	<p>子どもの病気②</p> <p>免疫の発達と感染症の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症とは、主な症状、ウイルス感染症、細菌感染症等 ・感染症の予防と適切な対応 <p>新生児、先天性の病気の特徴と対応</p> <p>アレルギー疾患の特徴と適切な対応</p> <p>慢性疾患の特徴と適切な対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの免疫の発達について理解する。感染症の種類と感染経路を知る。子どもがかかりやすい感染症の特徴を知る。 ・新生児特有の病気と対応、低出生体重児の定義、先天性の病気と対応を知る。 ・アレルギー疾患の特徴と対応を理解する。集団生活における対応を知る。 ・慢性疾患の種類と症状、対応を理解する。
28		
29		
30		

授業科目名	保育内容総論		担当者	工藤愛美			
			実務経験	保育所で保育士として勤務経験がある			
教科書	『新 基本保育シリーズ 保育内容総論』中央法規出版 『0歳～6歳子どもの発達と保育の本』学研教育出版 『保育所保育指針解説』 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	こども科	1	後期	必修	演習
		30					
授業概要	子どもの発達・生活・社会背景等が保育指針に示されている保育の目標、育みたい資質能力、育て欲しい姿にどのように反映され指針全体の構造をなしているかを理解する。保育原理と照らしながら、子どもの実態に即した保育過程と多様な展開について事例を通じて具体的に学ぶ。						
学習到達目標	1. 保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を理解する。 2. 保育所保育指針の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解する。 3. 子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育の内容の歴史の変遷等を踏まえ、保育の内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)につなげて理解する。 4. 保育の多様な展開について具体的に理解する。						
評価方法	出席状況、提出課題、授業内演習での取り組み、レポート、期末試験の総合評価						
時数	授業内容			到達目標・学習課題など			
1	<保育の全体構造と保育内容>			保育所の役割を概観し、保育所保育指針に基づく保育の基本および保育内容について理解する。			
2	・保育所保育指針に基づく保育の全体構造						
3	・保育所保育指針に基づく保育内容の理解1 養護			保育所保育指針第1章(総則)をふまえた「養護に関わるねらい及び内容」について理解を深める。			
4							
5	・保育所保育指針に基づく保育内容の理解2 教育			保育所保育指針第2章をもとに、保育所における乳・幼児期の教育について考える。			
6							
7	・保育内容の歴史の変遷とその社会的背景			現在の保育所保育指針で保育者が大切にしなければならない保育内容の基準の特徴を学ぶ。			
8							
9	・子どもの発達や生活に即した保育内容の基本的な考え方			乳幼児期の発達特性と各年齢期における発達の過程、それに応じたふさわしい保育の内容や環境について考える。			
10							
11	<保育の基本を踏まえた保育内容の展開>			「養護と教育が一体的に展開される保育」について、乳児期から幼児期の育ち、さらに小学校との接続も見越して考える。			
12	・養護と教育が一体的に展開される保育						
13	・子どもの主体性を尊重する保育			「子どもの主体性を尊重する保育」を実現するために、どのようなことに留意し、どのような状況をつくっていったらよいかについて理解する。			
14							
15	・環境を通して行う保育			保育所保育指針における環境を通して行う教育および保育について学ぶ。			
16							

17	・生活や遊びによる総合的な保育	保育内容における遊びとはどのようなものか、保育の現場で展開される遊びについて学び、子どもの楽しい遊びを展開するために必要なことについて理解を深める。
18		
19	・個と集団の発達をふまえた保育	保育所等における子ども一人一人の育ち、さらには友達同士との集団での育ちについて学ぶ。
20		
21	・家庭や地域等との連携をふまえた保育	子どもを育む家庭への支援について、さらに地域や関係する他機関との連携について、その意義や方法等を学ぶ。
22		
23	・小学校との連携・接続をふまえた保育	小学校との連携・接続をふまえた保育について、法令上の規定、課題、連携から接続へと進む内容、子どもをめぐる情報提供のあり方等を学ぶ。
24		
25	<保育の多様な展開>	長時間保育の配慮事項について子ども・家庭・職員それぞれの観点から理解する。
26	・長時間の保育	
27	・特別な配慮を要する子どもの保育	特に発達障害のある子どもに対する保育のポイントを中心に、障害のある子どもへのはたらきかけ方の基礎を学ぶ。
28		
29	・多文化共生の保育	多文化共生の保育とは何か、なぜ必要なのかを現在の日本の実情や子どもの成長・発達と併せて理解する。
30		

授業科目名	保育内容人間関係		担当者	日野つね子			
			実務経験	保育所で保育士として勤務経験がある			
教科書	『体験する・調べる・考える 領域「人間関係」』萌文書林	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	こども科	1	後期	必修	演習
30							
授業概要	子どもたちを取り巻く「人間関係」のあり方や領域「人間関係」のねらいや内容の理解を深め、様々なかかわりを通した人間関係の発達について事例を取り上げ解説する。また保育者としてどのようにして子どもの人とのかかわりを育てていくのか、保育者として子どもとどのような関係性を築いていくのか考察していく。						
学習到達目標	・保育内容を構成する領域「人間関係」について理解する ・子どもの発達とともに人間関係がどのように拡がり、深まっていくかを理解する ・子どもが人とかかわる力を身につけていくために保育者として果たすべき役割は何かを学ぶ						
評価方法	出席、授業態度、授業内課題への取り組み、期末試験を総合的に評価する						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	授業概要説明			保育内容「人間関係」の概要を知る			
2	保育所保育指針、幼稚園教育要領、認定こども園教育保育要領の基本方針			五領域に共通した「ねらい・内容・内容の取扱い」について理解する			
3	領域「人間関係」の「ねらい・内容・内容の取扱い」の関連			3つのねらいと内容、内容の取扱い、10の姿との関連を理解する			
4	"			"			
5	保育の基本と人のかかわり～人のかかわりの基礎			人のかかわりを育てるとはどのようなことを学ぶ			
6	" ～基本的な信頼感と人的環境①			乳幼児期の発達課題を理解する			
7	" ～基本的な信頼感と人的環境②			自分自身を見つめ、自分を理解する			
8	乳幼児期における人のかかわりの発達～保育者の役割			各年齢で保育者が行う集団作りを考える			
9	" ～乳児期の発達と人間関係			年齢による発達と人間関係の特徴を知る			
10	" ～幼児期の発達と人間関係			"			
11	遊びの中で育つ人のかかわり～人のかかわりと遊び①			子どもにとっての遊びについて理解する			
12	" ～人のかかわりと遊び②			"			
13	" ～遊びの中での人間関係①			遊びの中で人間関係が育つことを理解する			
14	" ～遊びの中での人間関係②			"			
15	" ～10の姿に育っていく過程			10の姿に育っていく過程を保障することについて学ぶ			
16	" ～保育者の役割			遊びにおける人のかかわりの育ちに関する保育者の役割について学ぶ			
17	人のかかわりを育てる保育の実践～人とかわれない子どもたち			保育の現場での実情を知る			
18	" ～人とかわる力が育っていくプロセス			子どもが自分をどのように変えていくかを理解する			
19	" ～モデル・援助者としての保育者			保育者の子どもへの影響、援助のあり方を知る			
20	人のかかわりが難しい子どもへの支援①			特別な支援を必要とする子どもと保育者とのかかわり方や友だちとの人間関係について学ぶ			
21	" ②			"			

22	園、家庭、地域と人とのかかわり～保育者の役割	子どもは、園の人間関係のみでなく家庭、地域の人間関係も大切であることを理解する
23	〃 ～子どもの生活と人とのかかわり①	〃
24	〃 ～子どもの生活と人とのかかわり②	〃
25	保護者とのかかわり	保育者と保護者がどのような人間関係を築くことがよいのか考える
26	保育者同士のかかわり	子どもにとっての身近な大人である保育者同士のかかわりについて考える
27	かかわりの育ちを「みる」	子どもたちのかかわりの育ちをどのように「みたら」よいのかを考える
28	〃	〃
29	親しい人との体験が生きる原動力となる	保育者として、人として何を大切にすればよいか考える
30	まとめ 「保育内容人間関係」を学んで	振り返りをする

授業科目名	保育内容言葉		担当者	阿部美帆			
			実務経験	保育所で保育士として勤務経験がある			
教科書	『コンパス 保育内容言葉』建帛社	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	こども科	1	後期	必修	演習
30							
授業概要	領域「言葉」に関連して、保育内容を組み立てて実践するための知識・技術・判断力の習得を目指す。また、乳幼児期の言葉の発達過程を理解し、各段階にふさわしいねらいの立て方、教材の活用、環境構成、配慮事項について、演習を通じて具体的に学びふととも、言葉を用いての思考や話そうとする意欲など生活に必要な自己表現ができる「言葉」の獲得について理解する。						
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児の言語発達を中心として人間と言葉についての理解を深め、土台形成に関わる意義を理解する ・言語発達を支援するためにふさわしいありかたを理解し、それを多様に具体化することができる 						
評価方法	・期末筆記試験 ・授業内に課す実技などの課題						
時数	授 業 内 容		到達目標・学習課題など				
1	幼児教育と言葉① 言葉とは何か 生活と言葉 言葉環境としての保育者の言葉の在り方		言葉についての理解を深め、多様性、環境の重要性について説明できる				
2	言葉とコミュニケーション 届く言葉 感受性と創造性 考える言葉		体験を通して中で言葉について理解する				
3	保育における言葉の発達		言葉の獲得についての理論と過程について理解する				
4	幼児教育と言葉② 領域「言葉」の位置付けと他領域との関わり		領域「言葉」のねらい及び内容、領域の統合性について理解する				
5	乳幼児期の言葉の発達過程と保育者としての評価① 領域「言葉」指導上の留意点と評価		領域「言葉」と保育実践とのつながりを理解する				
6	乳幼児期の言葉の発達過程と保育者としての評価② 0～3歳における言葉の発達		各発達段階における言葉の発達の特徴を説明できる 就学に向けた言葉についての取り組みを理解する				
7	乳幼児期の言葉の発達過程と保育者としての評価② 4～5歳における言葉の発達 6歳の就学に向けた取り組み						
8	言葉遊びに関する情報機器及び教材の活用法		情報機器や教材への知識を深める				
9	言葉遊びによる指導案作成及び模擬保育		言葉を育む児童文化財を活用できる				
10	言葉から文字へ、文字による環境		文字への関心を高める環境設定について考える				
11	文字体験としてのカルタ・双六・絵カード等の製作		製作物を完成させる				
12	模擬保育体験		領域「言葉」を意識した保育のイメージをつかむ				
13	保護者と言葉のあり方①言葉の遅れや障がいをもつ乳幼児の捉え方と支援		言葉の発達のサポートについて理解する				
14	保護者の言葉のあり方②外国の子どもとの対応		外国人の日本語習得上の課題と支援方法について理解を深める				
15	言語教材としての絵本の意義		絵本と子どもの育ちの関係、意義について説明できる				
16	デジタル教材の利用と保育現場の実際及び言語教材を用いた指導案の作成		デジタル教材の活用法と指導案の作成のイメージをつかむ				
17	おはなし等の指導法と情報機器の利用について		お話などの指導法、情報機器の利用を学び、実践に繋げることができる				
18	おはなし等の実践による指導案作成及び模擬保育						
19	言葉の年間授業計画と幼稚園、保育園、こども園と小学校との連携		言葉の指導計画への道筋を理解し、小学校との連携について説明できる				
20	言葉の発達を促す児童文化財(3歳児未満)ことば遊びの実践 製作準備		子どもの言葉を育む児童文化財を知り、その特質と活用について理解する。また、実践の中でその楽しさや魅力を味わう				
21	言葉の発達を促す児童文化財(3歳児未満)制作						

22	言葉の発達を促す児童文化財(3歳児未満)発表	
23	言葉の発達を促す児童文化財(3歳児以降)「紙芝居」「幼年文学」	子どもの想像力や言葉に対する感覚を育む児童文化財への理解を深め、作品の楽しみ方を提案できるようになる
24	言葉の発達を促す児童文化財(3歳児以降)発表準備	
25	言葉の発達を促す児童文化財(3歳児以降)発表	
26	言葉を育てる指導と指導計画(3歳児未満) 個々に合わせた指導計画について	個々に合わせた指導計画の必要性を理解し、3歳未満児の言葉の発達を支えるための指導計画や具体的な活動について考えられる
27	言葉を育てる指導と指導計画(3歳児未満) 指導案作成	
28	言葉を育てる指導と指導計画(3歳児以降) 「言葉を育てる」指導とは	5領域の全ての側面を持ち合わせている保育の中で、「言葉を育てること」をねらいとした指導についてねらいを持った際の指導について考えられる
29	言葉を育てる指導と指導計画(3歳児以降) 指導案作成	
30	「言葉」についてのまとめ	「言葉」の育ちの支援について説明できる

授業科目名	言語表現演習		担当者	阿部美帆			
			実務経験	保育所で保育士として勤務経験がある			
教科書	『保育実践に生きる』言語表現』児童文化財活用のエッセンス』萌文書林	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	こども科	1	後期	必修	演習
30							
授業概要	幼稚園教育要領・保育所保育指針における「表現」と、幼児の心の表現を学び、言語表現に利用できる児童文化財の作成を試みる。また、作成した児童文化財を用いての表現演習を通して、言語表現活動の指導法について考える。						
学習到達目標	乳幼児期の発達に応じた言語表現活動の指導法について述べるができる。言語表現活動をするための基本的な知識を身につけ実践することができる。						
評価方法	期末筆記試験、授業態度、提出物						
時数	授業内容			到達目標・学習課題など			
1	【子どもの言語表現指導法と指導案の作成】 幼稚園教育要領・保育所保育指針			領域「言葉」を中心に、児童文化財と保育内容との関わりを理解する			
2	言語表現の指導法及び指導案の作成			言語表現の指導法を理解し、指導案を作成できる			
3	【児童文化財による乳幼児の言語表現活動】児童文化の言葉の由来、歴史			児童文化の由来、歴史について説明できる			
4	言語表現活動の意義と範囲			児童文化財を実践する意義、種類を理解する			
5	児童文化における表現とは			児童文化財を通して行う表現の多様性を説明できる			
6	言語表現教材の指導法及び模擬保育の指導法			指導法の概要を理解する			
7	【言語表現が豊かになる児童文化財に指導】 絵本の読み聞かせや紙芝居等の活用と留意点			各児童文化財における活用と留意点について説明できる			
8	わらべ歌遊びや言葉遊び等の活用と留意点						
9	子どもの言葉を豊かに育む保育者の役割と環境構成			言葉を豊かに育む保育者の役割の大切さを理解する			
10	絵本、紙芝居、パネルシアター、ペープサート等の教材の作成と情報機器の活用法			各教材の作成、活用法を理解するとともに、教材活用に向けた指導法を考えられる			
11	絵本、紙芝居、パネルシアター、ペープサート等の教材活用と指導法						
12	絵本、紙芝居、パネルシアター、ペープサート等の教材と情報機器を活用した指導案の作成			各教材と情報機器を活用した指導案の作成を理解し、保育実践へと繋げるとともに、自らの問題点を理解し解決できる			
13	絵本、紙芝居、パネルシアター、ペープサート等による模擬保育と評価方法・振り返り						
14	わらべ歌、あそび歌、しりとり、伝言ゲーム等の意義及び教材の活用と指導法			歌あそびや言葉あそび等の意義を理解し、教材の活用を考えられるとともに、AV教材の活用について理解する			
15	わらべ歌、あそび歌、しりとり、伝言ゲーム等のAV教材活用と留意点						
16	わらべ歌、あそび歌、しりとり、伝言ゲーム等のA教材を活用した、指導案の作成と評価方法			AV教材を活用した、指導案の作成・評価・模擬保育について理解し、振り返りができる			
17	わらべ歌、あそび歌、しりとり、伝言ゲーム等の模擬保育と振り返り						
18	年間指導計画への位置づけと指導案の作成、並びに保幼小連携について			言語表現における指導計画と小学校との連携を知る			
19	パネルシアター制作 発表			パネルシアターを製作し、発表することで活用方法を			

20	パフォーマンス 表現 発表	身につける
21		
22	ペープサート製作	ペープサートを完成させる
23		
24	人形の製作	身近な素材を使った人形を完成させる
25	ペープサート、人形を用いた保育実践	表現演習から活用方法のイメージを得る
26	紙芝居を作る	全員で紙芝居を作成することで、紙芝居の構成を理解するとともに、子どもとともに作る紙芝居の良さ、アイデアを得る
27		
28		
29		
30	「言語表現」についてのまとめ	「言語表現活動」の概要と指導法を説明できる

授業科目名	音楽表現演習 I		担当者	山田瑠璃子・郷陽子・諏訪恵理			
			実務経験	民間のピアノ教室で指導者としての経験がある			
教科書	『保育者になるためのピアノ教本 子どもの歌でいつの間にか上達する』エイデル研究所、『こどものうた200』チャイルド社、『新たなしい子どものうたあそび 現場で活かせる保育実践』同文書院	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
	時間数	こども科	1	通年前期	必修	演習	
							60
授業概要	子どもの生活と遊びにおける音の感受とその表現に関する体験をより豊かなものにするための知識・技術を、各種楽器の演奏・歌唱技術の習練、音に関連した遊びの構成、音楽表現芸術の鑑賞を通して高める。						
学習到達目標	保育の現場で必要とされる発声や歌唱の技術を学ぶ。 ピアノの基本演奏技術を身につける。 保育においてふさわしい楽曲を演奏できるようにする。						
評価方法	①課題曲の歌唱 ②鍵盤楽器の演奏 ③子どもの歌の弾き歌い ④手遊び、わらべうたの実践						
時数	授業内容		到達目標・学習課題など				
1	感性と表現に関する領域「表現」の理解		領域「表現」について理解する。				
2	表現活動を支える伴奏についての基礎知識						
3	乳幼児の発達過程に応じた音楽表現の理解		乳幼児の発達に応じた音楽表現を学ぶ。				
4	表現活動における伴奏の方法と実践						
5	自然の音、身の周りの音についての学習		身の周りのいろいろな音について知る。				
6	身の周りの音の表現						
7	声の仕組み、「歌う」表現活動の理解		乳幼児の発達に応じた表現活動を促す伴奏法を学ぶ。				
8	乳幼児の発達とその表現活動を促す伴奏法						
9	0、1、2歳児の「声」の発達と表現活動の理解と実践		0、1、2歳児の声に合わせた伴奏法を学ぶ。				
10	3、4、5歳児の「声」の発達と表現活動の理解と実践		3、4、5歳児の声に合わせた伴奏法を学ぶ。				
11	「わらべうた」や「伝承あそび」などにおける実践		日本の伝統的なわらべうたや伝承あそびを学ぶ。				
12							
13	領域「表現」とほかの領域とのかかわり		表現と他領域とのかかわりを理解し、応用できるようにする。				
14	他領域と関連した曲の理解と実践						
15							
16							
17							
18							
19							

20		楽譜に書かれていることを理解し、表現できるようにする。
21	ピアノ「バイエルピアノ教則本」	
22	ソルフェージュ「コールユーブンゲン」	
23	子どもの歌の弾き歌い	
24		
25		
26		
27		
28		
29	「音楽表現」発表会	
30		

授業科目名	音楽表現演習 I		担当者	山田瑠璃子・郷陽子・諏訪恵理			
			実務経験	民間のピアノ教室で指導者としての経験がある			
教科書	『保育者になるためのピアノ教本 子どもの歌でいつの間にか上達する』エイデル研究所、『こどものうた200』チャイルド社、『新たなしい子どものうたあそび 現場で活かせる保育実践』同文書院	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
	時間数	こども科	1	通年後期	必修	演習	
							60
授業概要	子どもの生活と遊びにおける音の感受とその表現に関する体験をより豊かなものにするための知識・技術を、各種楽器の演奏・歌唱技術の習練、音に関連した遊びの構成、音楽表現芸術の鑑賞を通して高める。						
学習到達目標	保育の現場で必要とされる発声や歌唱の技術を学ぶ。 ピアノの基本演奏技術を身につける。 保育においてふさわしい楽曲を演奏できるようにする。						
評価方法	①課題曲の歌唱 ②鍵盤楽器の演奏 ③子どもの歌の弾き歌い ④手遊び、わらべうたの実践						
時数	授業内容			到達目標・学習課題など			
31	音あそび、楽器あそびなどによる表現活動の理解と実践			いろいろな音や楽器を通じて表現活動を学ぶ。			
32	乳幼児の楽器あそびや器楽合奏などに親しむための指導法						
33	指導計画に基づいた指導案の作成			こどもの歌の教材研究と伴奏法を学ぶ。			
34	模擬保育に使用する歌や曲の教材研究と伴奏法の実践						
35	模擬保育「いろいろの音を集めてあそぼう」			弾き歌いと伴奏法を実践する。			
36	模擬保育「わらべうた・伝承あそびを楽しむ」			わらべうたと伝承あそびを実践する。			
37	模擬保育「自然物や身近な素材を活かして楽器あそび」			弾き歌い、楽器あそびの教材研究と伴奏法の実践			
38	ポートフォリオなどを活用した「音楽表現の可視化」の実践			音楽表現の可視化について学ぶ。			
39							
40	小学校教科「音楽」への接続と学びの連続性についての理解			小学校教科「音楽」への学びの連続性を理解する。			
41							
42	合唱練習 楽器演奏			歌詞や楽器の鳴らし方を理解し、曲想に合った演奏ができる。			
43							
44							
45							
46							
47							
48							
49							

50		<p>楽譜に書かれていることを理解し、表現できるようにする。</p> <p>歌詞をよく理解し、表情豊かに豊かな声で弾き歌いを行うことができる。</p> <p>子どもと歌うことを想定して、弾き歌いを行うことができる。</p>
51	ピアノ「バイエルピアノ教則本」	
52	ソルフェージュ「コールユーブンゲン」	
53	子どもの歌の弾き歌い	
54		
55		
56		
57		
58		
59	「音楽表現」発表会	
60		

授業科目名	造形表現演習		担当者	芳賀 哲			
			実務経験				
教科書	『保育をひらく造形表現』萌文書林	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	こども科	1	前期	必修	演習
60							
授業概要	子どもの心身の発達や取り巻く環境等と「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」等をふまえて、子どもが意欲的に造形活動を楽しめるように、指導者として理解を深め、技能を高める。						
学習到達目標	保育指導法「表現」のねらいと内容等に基づいた保育の基本について理解し、発達段階を踏まえた造形表現の特徴を理解する。自らが造形活動に楽しむとともに、幼児が参加したくなるような造形活動を考え、具体的にどのように導くかを実践し、技能を磨く。						
評価方法	授業内課題(作品+まとめのレポート)、授業態度及び出席						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	授業ガイダンス及び自己紹介カードについて			幼児の造形表現を基本を知る			
2	自己紹介カードの作成			自己紹介カードを提出する			
3	3歳未満児の遊びと造形表現の発達を学ぶ(0,1歳)			各発達段階における、遊びと造形表現の発達の特徴を理解する。			
4	3歳未満児の遊びと造形表現の発達を学ぶ(2歳)						
5	3歳児以降の遊びと造形表現の発達を学ぶ(3歳)						
6	3歳児以降の遊びと造形表現の発達を学ぶ(4,5歳)						
7	形から学ぶ(イメージを広げる)			鉛筆画について理解を深める			
8	形から学ぶ(イラストを描く)			鉛筆画を提出する			
9	モダンテクニックについて学ぶ			モダンテクニックの大切さを知る			
10	絵の具で虹を描く			にじみ画を体験し、虹の絵を提出する			
11	パチックについて学ぶ			パチックについて理解を深める			
12	パチックを体験する			パチックの楽しさを感じる			
13	染め紙について学ぶ			染め紙について理解を深める			
14	染め紙を体験し、そこからの発展を考える			染め紙の方法を知り、発展が考えられる			
15	たんぽについて学び、作る			たんぽについて理解を深め、作り方を知る			
16	たんぽで作品を作る			たんぽを使用した作品を提出する			
17	ビー玉転がし絵を体験する			ビー玉転がし絵についての理解を深める			
18	ビー玉転がし絵の展開について学ぶ			ビー玉転がし絵の発展を考えられる			
19	ちぎり絵を体験し、糊の使用について学ぶ			年齢に合った道具の使用を知る			
20	はさみを使った遊びを体験する			はさみを使った遊びを知り、楽しさを感じる			
21	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における「表現」領域について			保育指導法「表現」のねらいと内容等に基づいた保育の基本について理解できる			

22	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における「表現」領域での小学校との連携(「図画工作」の学習指導要領)	
23	造形教育の思想と指導法の推移	乳幼児の表現活動の大切さと発達段階を踏まえた造形的な表現の特徴が理解できる
24	こどもの発達段階における表現の特徴	
25	こどもの発達段階における表現の指導・援助(指導案)	発達段階に合わせた指導・援助について理解し、指導案への評価がわかる
26	こどもの発達段階における表現の指導案への評価	
27	例題に沿って指導案を作成する	指導案の成り立ちがわかるようになる
28	例題に沿って指導案を作成する	
29	教材研究を伴う製作 I (「えがく」の説明、準備)	「えがく」について体験を通して理解できる
30	教材研究を伴う製作 I (「おばけ」をえがく)	

授業科目名	造形表現演習		担当者	芳賀 哲			
			実務経験				
教科書	『保育をひらく造形表現』萌文書林	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	こども科	1	前期	必修	演習
60							
授業概要	子どもの心身の発達や取り巻く環境等と「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」等をふまえて、子どもが意欲的に造形活動を楽しめるように、指導者として理解を深め、技能を高める。						
学習到達目標	保育指導演「表現」のねらいと内容等に基づいた保育の基本について理解し、発達段階を踏まえた造形表現の特徴を理解する。自らが造形活動に楽しむとともに、幼児が参加したくなるような造形活動を考え、具体的にどのように導くかを実践し、技能を磨く。						
評価方法	授業内課題(作品+まとめのレポート)、授業態度及び出席						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
31	教材研究を伴う作成Ⅱ(「つくる」の説明、準備)			「つくる」について体験を通して理解できる			
32	教材研究を伴う製作Ⅱ(「箱などを組み合わせて」つくる)						
33	教材研究を伴う製作Ⅲ(「造形あそび」の説明、準備)			「造形あそび」について体験を通して理解できる			
34	教材研究を伴う製作Ⅲ(「紙粘土」でつくる)						
35	実践的な指導演(模擬保育など)の学習(えがく・つくる・造形あそび)			模擬保育を通して、実践的な指導演の理解を深める			
36	実践的な指導演(模擬保育など)の学習(講師の模擬保育を見て考える)						
37	自ら指導演を作成する(説明、資料集め)			オリジナルの指導演を作成し、提出する			
38	自ら指導演を作成する(作成)						
39	えがく・つくる・造形あそびの保育展開(指導演)と情報機器及び教材の活用 まとめ			乳幼児の造形表現活動の展開と援助の在り方を学び、保育者としての知識と技術が習得できる			
40	えがく・つくる・造形あそびの保育展開(模擬保育体験)						
41	新聞紙で遊ぶ			新聞紙あそびの楽しさを知る			
42	新聞紙で造る			新聞紙を使った製作について理解する			
43	3歳までの折り紙について			3歳までで扱う折り紙についての理解を深める			
44	3歳までの初めての折り紙を体験する			体験の中から、知識と技術を身に付ける			
45	4, 5歳児の折り紙について			4, 5歳児の折り紙についての理解を深める			
46	4, 5歳児の折り紙を体験する			体験の中から、知識と技術を身に付ける			
47	お絵描きからのペープサートについて(説明、準備)			お絵描き、ペープサートのつながりを理解する			
48	お絵描きからのペープサートについて(製作)			お絵描きからのペープサート製作の技術を身に付ける			
49	画用紙とストローで羽ばたく蝶々づくり(製作)			画用紙、ストローを使った工作を体験から学ぶ			
50	画用紙とストローで羽ばたく蝶々づくり(展開)			作った作品で保育展開を考えられる			
51	画用紙でくるくる回る工作づくり(製作)			画用紙を使った製作を体験から学ぶ			

52	画用紙でくるくる回る工作づくり(応用)	作った作品をもとに、応用を考えられる
53	画用紙で投げて立つおもちゃづくり(製作)	画用紙を使った製作を体験から学ぶ
54	画用紙で投げて立つおもちゃづくり(応用)	作った作品をもとに、応用を考えられる
55	折り紙と画用紙で指人形づくり(説明。準備)	折り紙と画用紙を使った製作を体験する
56	折り紙と画用紙で指人形づくり(製作)	指人形を完成させる
57	指人形の演じ方を考える	指人形についての理解を深める
58	指人形で演じる	演じるうえで大切なポイントを理解する
59	画家の生涯と作品から学ぶ	生涯と作品から読み取れることを説明できる
60	全体の振り返り まとめ	造形表現について理解する レポートを提出する

授業科目名	乳児保育 I		担当者	日野つね子			
			実務経験	保育所で保育士として勤務経験がある			
教科書	『改訂 乳児保育の基本』萌文書林	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	こども科	1	後期	必修	講義
30							
授業概要	昨今の社会状況と保育ニーズを理解したうえで、保育所、乳児院、小規模保育、家庭的保育等多様な施設に及ぶ乳児保育の基本を学ぶ。その意義、目的、役割、歴史的変遷、発育と発達をふまえた保育計画と内容、職員間・保護者との連携について総合的に学ぶ。						
学習到達目標	1.乳児保育の意義と目的を学び、乳児の成長と発達に即した保育の基本を理解する。2.乳児保育の歴史的変遷を知り、乳児保育の役割を学ぶ。3.乳児が生活をする場の現状と課題について理解する。4.乳児の発達と保育内容を学び、発達と保育の全体像を理解する。5.乳児と生活を共にする職員の役割について理解する。						
評価方法	出席、授業態度、授業内課題への取り組み、期末試験を総合的に評価する						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	授業概要説明・自己紹介			乳児保育の意義・役割・機能を理解する 養護と教育の一体性について理解する			
2	乳児保育の意義・目的						
3	乳児保育の歴史的変遷						
4	乳児保育の役割・機能						
5	乳児保育における養護と教育						
6							
7	乳児が生活する場の現状と課題 ①家庭			各乳児保育が行われる場の役割や現状と課題について理解する			
8	②保育所						
9							
10	③認定こども園						
11	④地域型保育事業						
12							
13	⑤在宅訪問保育						
14							
15	⑥乳児院						
16							
17	DVD視聴「つまづきのある子への保育-乳児院」						
18	乳児保育の重要性			乳児保育の重要性と発育・発達をふまえた保育内容を学ぶ			
19	乳児保育の内容の概要						
20							
21	保育指針・教育要領・保育要領にみる乳児保育の内容						

22	①保育のねらいと内容	
23	②0歳児の保育のねらいと内容	
24	③1,2歳児の保育のねらいと内容	
25	④計画・評価・記録について	
26	保育者間の連携	連携や協力をして保育を進めるための、保育者の役割を知り理解する
27	保護者との連携	
28		
29	地域との協働	
30	まとめ「乳児保育Ⅰ」を学んで	振り返りをする

授業科目名	子どもの健康と安全		担当者	尾形由美子			
			実務経験	病院で看護職として勤務経験がある			
教科書	『授業で現場で役に立つ！ 子どもの健康と安全演習 ノート』診断と治療社	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	こども科	1	後期	必修	演習
30							
授業概要	子どもの心身の成長発達を踏まえ、健やかな子どもの成長を支え安全な環境を提供するための保健活動の在り方と、安全管理について学ぶ。また子どもの疾病や障害のある子どもへの適切な対応や感染症対策や救急処置について、保育者として必要な対応を習得する。さらに施設での事故防止や健康安全管理への取り組みを通して地域保健活動の在り方を理解し、他の組織・地域等と協働する力を身につける。						
学習到達目標	①保育における保育環境や援助について理解し、説明することができる。②保育における健康及び安全管理について具体的に理解し、説明することができる。③子どもの体調不良に対して適切に対応するための方法について説明することができる。④保育における感染症対策について具体的に実践することができる。						
評価方法	定期試験60%・課題30%・平常点10%						
時数	授業内容		到達目標・学習課題など				
1	オリエンテーション						
2	保健的観点を踏まえた保育環境及び援助を知る		人的環境・物理的環境・場の環境を理解する				
3	子どもの保健に関する個別対応と集団全体の健康および安全管理について学ぶ		体調変化の際の個別対応や集団全体の対応ができるようになる				
4	健康診断について理解し、身体発育の実際を学ぶ		子どもの成長発達を踏まえた生活習慣を理解し、適切な生活習慣の形成と発育測定ができるようになる				
5	子どもの生活習慣と心身の健康について学ぶ						
6	「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」を学ぶ		ガイドラインの内容を理解する				
7	保育施設での死亡事故をあげ、グループワークする		保育者の子どもの生命維持に対する使命を確認する				
8	保育施設での危機管理について、グループワークする		危機管理について具体的に理解する				
9	保育施設での災害対策について、グループワークする 避難訓練を実際に行い、考察する		災害対策について具体的に理解する				
10							
11	「教育所におけるアレルギー対応ガイドライン」を学ぶ		ガイドラインの内容を理解する				
12	体調不良に対する対応①アレルギー エピペンの使い方		アレルギー疾患に対するケアを理解し実践することができるようになる				
13	体調不良に対する対応②発熱、腹痛、下痢等		症状に対応する適切なケアを理解し対応することができる 適切なケアについて具体的に理解する				
14	症状症例についてケアの実際を通してグループワークする						
15	体調不良に対する対応③痙攣、嘔吐等		症状に対応する適切なケアを理解し対応することができる 適切なケアについて具体的に理解する				
16	症状症例についてケアの実際を通してグループワークする						
17	ヒヤリハット事例についてグループワークする		衛生管理、事故防止の実際について具体的に理解し実践できるようになる				
18	救急措置の実際 大人と子供の救急蘇生法を学ぶ		子どもの救急蘇生法を理解し、対応することができるようになる				
19	子どもの事故と応急処置①応急手当(打撲・傷・鼻出血等)		応急処置の実際を理解し、対応することができるようになる				
20	正しい応急手当の方法を理解する						
21	子どもの事故と応急処置②応急手当と包帯・三角巾の使い方		応急処置の実際を理解し包帯・三角巾を使うことができるようになる				

22	正しい応急手当の方法を理解する	
23	感染症の予防と対策①衛生管理	施設内外の衛生管理の実際を理解する 施設内外の衛生管理の実際を理解し実践できるようになる
24	「保健所における感染症対策ガイドライン」を学ぶ	
25	感染症の予防と対策②集団発生の予防と対応	集団発生の予防と発生時の対応を理解する 集団発生の予防と発生時の対応を理解し実践できるようになる
26	「保健所における感染症対策ガイドライン」を学ぶ	
27	個別的な配慮を要する子どもへの対応①慢性疾患等	個別的配慮の必要な子どもへの対応を地域保険の観点から支援されていることの理解を深める
28	個別的な配慮を要する子どもへの対応②障害をもつ子どもへの対応	
29	保育における保健活動の計画及び評価	保健計画作成について理解し実践できるようになる
30	保健活動における職員間の連携・協働と関係機関との連携について学ぶ	連携・協働の重要性を理解する

授業科目名	障害児保育		担当者	石神美環子			
			実務経験	宮城県子ども教育相談の電話相談員として勤務経験がある			
教科書	『実践に生かす障害児保育・特別支援教育』萌文書林	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	こども科	1	通年前期	必修	演習
60							
授業概要	人間の連続性に立った障害の捉え方、障害児保育の理念や歴史の変遷、合理的配慮と援助について理解する。障害児その他の特別な配慮を要する子どもの個々の障害等の理解と援助、指導・支援計画、インクルーシブな保育、家庭や関係機関との連携について具体的に理解する。						
学習到達目標	保育現場で対応が求められる様々な障害について理解し、子どもの育ちを支援する方法を学ぶだけでなく、障害の有無にかかわらず多様性をもつ子どもの個性に気づくことができるよう、家族、保育者、関係機関の連携と支援環境づくりの重要性についての理解を促進する。						
評価方法	出席、授業参加態度、課題等提出物、期末試験成績などから総合的に評価する。						
時数	授業内容			到達目標・学習課題など			
1	オリエンテーション①障害児・者のイメージ、経験、「ふつう」の基準			アンケートなどを通して自分の考え方を確認する			
2	オリエンテーション②「ふつう」とは何か？						
3	障害児保育とは何か、対象としての障害児理解			乳幼児期の障害特性と障害児保育の意義について理解する			
4	幼稚園・保育所における障害児保育の意義						
5	「障害」とは何か①「一元論」としての障害の理解			「障害」とは何かについて様々な側面や定義から理解する			
6	「障害」とは何か②ICIDH(国際障害分類)とICF(国際生活機能分類)						
7	「障害」とは何か③社会や産業構造の変化と障害の捉え方						
8	障害児保育の理念①障害児保育の歴史の変遷、現状と課題について学ぶ			障害児保育の変遷と特徴、今日の課題等について学ぶ			
9	障害児保育の理念②ノーマライゼーション、リハビリテーション、ソーシャルインクルージョン						
10	障害児保育の理念③障害児保育の制度と形態、専門職						
11	障害児保育の理念④日本の障害の法的定義、障害者の現状			障害受容に関する概念と過程について理解する			
12	障害受容①「対象喪失」の概念						
13	障害受容②障害受容における段階理論						
14	障害受容③障害受容と価値転換論			障害受容の本質と問題点について考える			
15	障害受容における段階理論と価値転換論への批判①						
16	障害受容における段階理論と価値転換論への批判②						
17	障害児をめぐる諸問題①インクルーシブな保育			グループでの話し合いなどによって、障害児をめぐる問題や課題への気づきを促す			
18	障害児をめぐる諸問題②障害児・者の社会的排除の歴史						
19	障害児をめぐる諸問題③優生思想、出生前診断等						
20	障害特性の理解①知的障害の診断基準と原因、心理・行動特性			知的障害の原因と特徴、障害特性、支援方法などについて理解する			
21	知的障害児の事例を用いて、対応、支援方法						

22	ダウン症の原因と特徴、青年期退行現象	
23	『ダウン症の子をもって』(正村公宏著、抜粋)	
24	障害特性の理解②自閉症スペクトラム障害の定義と原因	自閉症の原因と特徴、障害特性、支援方法などについて理解する
25	自閉症スペクトラム障害の特徴、対人障害の種類	
26	「心の理論」について、他者の心の理解とその発達	
27	自閉症スペクトラム障害の事例と支援	
28	障害特性の理解③多動性障害の診断基準と生活上の困難	発達障害の原因と特徴、障害特性、支援方法などについて理解する
29	学習障害の診断基準と生活上の困難	
30	多動性障害と学習障害の合併、二次障害	

授業科目名	障害児保育		担当者	石神美環子			
			実務経験	宮城県子ども教育相談の電話相談員として勤務経験がある			
教科書	『実践に生かす障害児保育・特別支援教育』萌文書林	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	こども科	1	通年後期	必修	演習
60							
授業概要	人間の連続性に立った障害の捉え方、障害児保育の理念や歴史的変遷、合理的配慮と援助について理解する。障害児その他の特別な配慮を要する子どもの個々の障害等の理解と援助、指導・支援計画、インクルーシブな保育、家庭や関係機関との連携について具体的に理解する。						
学習到達目標	保育現場で対応が求められる様々な障害について理解し、子どもの育ちを支援する方法を学ぶだけでなく、障害の有無にかかわらず多様性をもつ子どもの個性に気づくことができるよう、家族、保育者、関係機関の連携と支援環境づくりの重要性についての理解を促進する。						
評価方法	出席、授業参加態度、課題等提出物、期末試験成績などから総合的に評価する。						
時数	授業内容			到達目標・学習課題など			
31	障害特性の理解③多動性障害・学習障害の事例と支援			発達障害の支援方法などについて理解する			
32	発達の見方と気になる発達の評価						
33	障害特性の理解④情緒障害・愛着障害の種類と基準			子どもの情緒障害と習癖と支援について理解する			
34	障害特性の理解⑤子どもの習癖						
35	障害特性の理解⑥肢体不自由			肢体不自由、視聴覚障害、言語障害、病弱・身体虚弱について理解する			
36	障害特性の理解⑦視聴覚障害						
37	障害特性の理解⑧言語障害						
38	障害特性の理解⑨病弱・身体虚弱						
39	障害児保育の実際①統合保育			障害児保育の実践における意義と保育計画、障害特性による支援、課題と対応等について事例などを用いて考える			
40	障害児保育の実際②障害児の在籍するクラスの保育計画						
41	障害児保育の実際③障害特性による支援方法						
42	障害児保育の実際④子どもの行動と支援						
43	障害児保育の実際⑤障害児の指導計画						
44	障害児保育の実際⑥子どもの「問題行動」の捉え						
45	障害児保育の実際⑦クラスメートへの対応						
46	保育の支援体制①障害の早期発見、保護者支援、関係機関との連携			保護者や関係機関との連携、実態の把握、保育計画等について理解する			
47	保育の支援体制②保育現場における実態の把握、観察と記録の方法						
48	保育の支援体制③子どものもつ困難さの個別性への保育支援計画						
49	保育の支援体制④支援を要する子どもに対する保育者同士の協働						
50	障害児を抱える家族への支援①障害を抱える子どもに向き合う			障害児の家族関係、家族への支援方法、問題と課題等について理解する			
51	障害児を抱える家族への支援②障害の種類と障害受容、家族の感情						

52	障害児を抱える家族への支援③障害児の親のニーズと支援	
53	障害児を抱える家族への支援④障害児の親子関係への支援	
54	障害児を抱える家族への支援⑤児童虐待と障害、養育環境	
55	障害児のアセスメント①保育現場における発達アセスメント	障害を持つ子どものアセスメントと理解、活用法等について理解する
56	障害児のアセスメント②保護者からの情報による子ども理解	
57	障害児のアセスメント③行動観察における子ども理解	
58	障害児のアセスメント④障害のスクリーニング検査とその活用	
59	まとめ①障害児保育の現場で考えられる困難と対応	保育者として関わる際に考えられる困難について考える
60	まとめ②障害児にかかわる保育者の「波長合わせ」	

授業科目名	保育実習指導 I-A		担当者	工藤愛美・伊藤基・大友美悠希・阿部美帆			
			実務経験	保育所で保育士として勤務経験がある			
教科書	『わかる・話せる・使える 保育のマナーと言葉 改訂版』わかば社 『保育園・幼稚園の実習 完全マニュアル』成美堂出版	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	こども科	1	後期	必修	演習
	30						
授業概要	保育実習の意義や目的を理解し、保育士の職務内容及び倫理について学ぶ。実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシー保護と守秘義務について理解する。又、実習の計画・観察・実践・記録・評価の方法や内容を学ぶ。						
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育実習の意義・目的を理解する。 ・実習内容を理解し、自らの課題を明確にする。 ・実習施設における子どもの人権と最善の利益を考慮し、プライバシーの保護と守秘義務について理解する。 						
評価方法	観察実習等の事前・事後指導に関する提出物や参加状況、作文課題等。						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	保育実習の意義と目的			<ul style="list-style-type: none"> ・実習の位置づけを理解し、保育所や施設の形態にそった実習の目的、及び内容について学ぶ。 ・これまで学習した理論や実技を基礎とし、総合的に実践する応用力を養っていくために必要となる事柄について確認する。 			
2							
3	保育の現場で学ぶこと ・保育所、幼稚園、認定こども園についての再確認						
4							
5							
6	実習生としての心構え ・実習に際しての留意事項、プライバシーの保護と守秘義務について理解する ・実習事前準備として必要な、持ち物、服装、身だしなみ、時間の管理等について確認する ・目的意識を持った参加の仕方と観察のポイント						
7							
8							
9	オリエンテーション参加の心構えとポイント ・オリエンテーションの依頼の仕方、事前準備、確認事項について学ぶ						
10							
11	実習用エプロンの作成 ・名前や装飾などをつける						
12							
13	<観察実習①(保育所)> <ul style="list-style-type: none"> ・保育園の雰囲気慣れ、実習生の立場をわきまえた言葉遣いや行動を身に付ける ・観察を通して、子どもや保育士の流れを知る ・保育の実際に接し、子どもとの関わりを通して、乳幼児の発達と保育所保育の意義について学ぶ ・観察実習①の振り返りをする 			<ul style="list-style-type: none"> ・担当者からの指導をふまえながら、積極性を持って観察や保育体験に参加する。 ・各施設における保育者の役割や子ども理解を深める。 ・現場での実体験から、保育士を目指すうえで必要となる自己の課題を明確にし、克服できるようにする。 			
14							
15							
16							
17							
18							
19	<観察実習②(保育所)> <ul style="list-style-type: none"> ・1日目の学びを活かし、目標や課題の設定をして臨む ・部分実習(手遊び、絵本の読み聞かせ)に向けた準備をし、目的を持って実習に参加する。 ・実習①で感じた疑問や不明な点について確認し、学びを深める 						
20							
21							

22	さいへん。 ・観察実習②の振り返りをする	
23		
24		
25		
26	観察実習報告	・学んできたことをまとめ、他者と共有しながら今後の課題を明確にする。
27		
28	実習日誌について ・実習日誌記入のポイントと項目別の書き方について理解する	・実習日誌の書き方について理解したことをふまえ、観察実習を例として実際に記入することができる。
29		
30		

授業科目名	子どもの理解と相談支援		担当者	石神美環子			
			実務経験	宮城県子ども教育相談の電話相談員として勤務経験がある			
教科書	『教育相談支援 子どもとかかわる人のためのカウンセリング入門』萌文書林	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		時間数					
授業概要	心の多様な側面について理解し、子どもと保護者、子どもにかかわる保育者それぞれの視点からの自己理解の方法、他者理解のための知識、心理アセスメントの技法について学び、子どもの精神疾患、現代の子どもと子どもを取り巻く環境、事例などを通して、子どもや保護者への相談支援の在り方について理解を深める。						
学習到達目標	「大人」「子ども」関わらず、どのような役割や立場にあっても心をもつ人である人間理解の方法を、子どもや保護者への適切な理解と支援に活かすことができることを目指す。						
評価方法	出席、授業参加態度、課題等提出物、期末試験成績などから総合的に評価する。						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	心の理解①現象的場の理解と人間行動			子どもの心の理解と保育者の自己理解のために「心とは何か」について考え、理解する			
2	心の理解②知覚と認知						
3	心の理解③意識と無意識						
4	心の理解④感情と行動						
5	子どもの理解①子どもの精神発達			子どもの成長と危機、発達課題について理解する			
6	子どもの理解②子どもの発達の遅れ						
7	子どもの理解③子どもの成長と発達課題－1－						
8	子どもの理解④子どもの成長と発達課題－2－						
9	子どもの理解⑤子どもの生活と遊び			遊びを通しての子どもの「個」の世界と他者との世界への広がりについて理解する			
10	子どもの理解⑥「個」と集団						
11	演習①感情と行動のブレインストーミング			感情と行動について多面的に理解する			
12	保育における心理アセスメント①来談者中心療法			心理アセスメントの基礎について理解する			
13	保育における心理アセスメント②心理検査法						
14	保育における心理アセスメント③遊戯療法						
15	演習②問題の正確な理解			「問題」の本質やその背景について理解する			
16	演習③危機と喪失						
17	相談支援の基礎①カウンセリングの基礎知識			相談支援に必要な基礎的知識を身につける			
18	相談支援の基礎②言語と非言語						
19	相談支援の基礎知識③傾聴と共感						
20	演習④相談支援における質問の一般的基準			支援を必要とする人への質問や応答の仕方の基礎を身につける			
21	演習⑤質問の背景と応答						

22	子どもの精神疾患①不安障害	子どもに見られる主な精神疾患について理解する
23	子どもの精神疾患②強迫性障害	
24	子どもの精神疾患③心的外傷後ストレス障害	
25	子どもの精神疾患④うつ病と自殺	
26	気になる子どもへのかかわり方①	事例を通して気になる子どもへのかかわり方の実際を学ぶ
27	気になる子どもへのかかわり方②	
28	気になる保護者へのかかわり方①	事例を通して気になる保護者へのかかわり方を学ぶ
29	気になる保護者へのかかわり方②	
30	まとめ	講義内容について振り返る

授業科目名	人間関係論		担当者	日野つね子			
			実務経験	保育所で保育士として勤務経験がある			
教科書	『新訂 事例で学ぶ保育内容 領域 人間関係』萌文書林	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	こども科	1	後期	選択必修	講義
15							
授業概要	領域「人間関係」の考え方について理解を深め、人間関係の成立と展開について理解する。保育実践において、人間関係を育む際の保育者の役割について理解し、子どもの発達に応じた保育のあり方を考える。						
学習到達目標	現代の子どもの人間関係の育ちに影響を与えている社会的要因について理解し、幼児(保育)教育で保証すべき教育内容に関する知識を身につける。子どもを取り巻く他者との関係、集団との関係から、子どもの人間関係を考察し、乳幼児が人との関わりを通じて育つことを理解する。						
評価方法	出席・授業態度・定期試験・レポートにより総合的に評価						
時数	授業内容			到達目標・学習課題など			
1	領域「人間関係」 ねらいと内容 領域「人間関係」と他領域との関係			領域「人間関係」のねらいと内容を学ぶ 他領域との関係を学ぶ			
2							
3	人間関係を取り巻く社会環境① 少子高齢化 家族の変化			少子高齢化と家族の変化を理解しその影響を考える			
4							
5	人間関係を取り巻く社会環境② 身近な環境の変容 メディアの変化			子どもを取り巻く環境の変化とその影響を考える			
6							
7	人間関係をつむぐ子どもの発達① 規範意識と道徳性の芽生え ルール・きまり事の意味と意義			子どもの発達における道徳性の発達について理解する			
8							
9	人間関係をつむぐ子どもの発達② 自立心・協同性の芽生え 自己発揮と自己抑制の芽生え			子どもの自立心、協同性の芽生えについて理解する			
10							
11	人間関係と子どもの遊び 遊びの中で育つ乳児・幼児の人間関係			子どもにとっての遊びを理解する			
12	人間関係と子どもの生活 家庭とのかかわりと子どもの発達 地域とのかかわりと子どもの発達			子どもが豊かな人間関係を築いていくためには何が 必要かを考える			
13							
14	今日的な人間関係の課題 多様な文化の子ども 気に留めたい子ども			保育の場における人間関係をめぐる課題にどのよう に取り組んでいくのかを考える			
15							

授業科目名	表現と子どもの運動		担当者	伊藤 基			
			実務経験	保育所で保育士として勤務経験がある			
教科書	『運動遊び表現遊び指導法を身につける理論と実践』大学図書出版	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	こども科	1	後期	選択必修	講義
15							
授業概要	年齢や環境に応じた表現活動を通して、子どもの感性が豊かになることを理解する。また、子どもたちが楽しく表現運動をすることができる安全性についても認識を深める。						
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・表現活動が子どもの豊かな感性に関連することを理解する。 ・表現運動の5つの領域について理解をする。 ・援助者として発達状況に応じた援助のあり方について理解をする。 						
評価方法	期末筆記試験						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	表現とこどもの運動について			運動遊びのねらいについて理解をする			
2				運動遊びの援助方法について理解をする			
3	こどもの発達と運動について			身体・形態・機能・こころの発育について理解をする			
4	身体コントロール能力の向上			調整力中心の体づくり運動について理解をする			
5	運動遊びの基本的な動きについて			運動表現について(身体認知・空間認識について理解をする)			
6							
7	表現と子どもの運動における援助者の役割			援助者の環境構成について理解をする。			
8	表現と運動遊びの実践例について			様々な表現と運動遊びについて理解をする。			
9							
10	子どもの表現運動Ⅰ			表現運動実施の教育的意義について理解をする			
11				身体表現運動について理解をする			
12	子どもの表現運動Ⅱ			身体表現運動のねらいについて理解をする			
13				実施上の注意事項について理解をする			
14	発達段階と表現運動の実践			年齢別発達における表現遊びについて理解をする。			
15				段階別の運動遊びについて理解をする			

授業科目名	音楽理論		担当者	諏訪恵理			
			実務経験	民間のピアノ教室で指導者としての経験がある			
教科書	『実践楽譜がよめる！大人のための音楽ワーク テキスト』『実践楽譜がよめる！大人のための音楽ワークドリル』ヤマハミュージックメディア「おんがくのしくみ 歌って動いてつくってわかる音楽理論 幼稚園教諭・保育士・小学校教諭養成課程用」教育芸術社	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	こども科	1	前期	選択必修	講義
		15					
授業概要	歌唱、各種楽器の演奏、伴奏の基礎となる音楽理論を学び、楽譜を解釈できるようになると共に、既存の楽譜を基に対象とする子どもに向けた移調を行う能力を身につける。						
学習到達目標	保育者にとって必要な音楽記号や楽譜の解釈ができるようになる。その基礎知識を活かし、既存の楽譜を基に対象とする子どもに向けた移調や編曲を行う能力を身につける。						
評価方法	小テストと期末試験、課題提出を総合して評価する。						
時数	授業内容			到達目標・学習課題など			
1	「五線」「音部記号」「音の高低」音高と鍵盤の位置・記譜法			五線の名前・ト音記号とヘ音記号の読み方と書き方を覚える。その後、五線を使用し音の高低を覚える。			
2	「音の長さ(音価)」音符の名称とその長さ・付点			音符の種類と長さの関係を理解し覚える。			
3	「音の長さ(音価)」休符の名称とその長さ・付点			休符の種類と長さの関係を理解し覚える。			
4	「拍子」拍子記号・リズム打ち			拍子記号の意味と種類を覚える。その後、拍子を数えながらリズム打ちができるようになる。			
5	「音名」「変化記号とその役割」音の様々な呼び方・シャープ・フラット・ダブルシャープ・ダブルフラット・ナチュラル			様々な音名と変化記号の役割を理解し覚える。			
6	「臨時記号」と「調号」			臨時記号と調号の違いを理解する。			
7	「音階」長音階・短音階の音の配列			全音・半音の違いを理解する。			
8	「音階」と「調号」の関係			長音階・短音階の基本を教える。 調号と音階の関係を身につける。			
9	「音階」と「調号」の関係						
10	「記号と標語」強弱・速度・曲想に関する記号の理解			楽譜に記載されている記号や標語の読みや意味を理解し、読譜できるようにする。			
11	「音程」 二つの音の隔たり(完全系・長短系・増・減・重増・重減)			半音と全音などの違いなど音と音の幅の違いを理解し、度数を教える事ができるようにする。			
12	「音程」 二つの音の隔たり(完全系・長短系・増・減・重増・重減)						
13	「音程」 二つの音の隔たり(完全系・長短系・増・減・重増・重減)						
14	「移調」			移調の手順を覚え、移調をできるようにする。			
15	「移調」						

授業科目名	文章の理解と表現Ⅱ		担当者	町田洋介			
			実務経験	企業で個別指導インストラクターとして勤務経験がある			
教科書	配付プリント	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	こども科	2	通年	必修	講義
30							
授業概要	アピール文、キャッチコピー、詩、物語などの様式をふまえた創作を行い、文章の魅力を高めるための技術を身につける。科目「文章の理解と表現Ⅰ」で学んだ客観的な文章表現と情感を大切に文章表現とを保育において有効活用することを目指す。						
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・事実に基づいた説明を大切に文章、主観性・情感・間主観性を大切に文章を使い分けることができる ・理解語彙、使用語彙の幅を拡げ、自分の表現に活用することができる 						
評価方法	・期末の筆記試験 ・授業内で課す課題						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	発想力を磨く リストアップ ブレインストーミング マッピング			さまざまな思考の技法を用い、より柔軟で意外性のある発想を行う。			
2							
3							
4							
5	オノマトペを味わう 絵本のオノマトペ オノマトペで表す			オノマトペがどのように絵本で用いられているかを知り、身の回りの事象をオノマトペで表す。			
6							
7							
8	手紙、メールの書き方 手紙本文の作成と郵送の仕方 メール本文の作成と送信の仕方			お礼状等の手紙を書く際に必要な手紙やメールの本文構成を学び、郵送およびメール送信の仕方の注意点を学ぶ。			
9							
10							
11	詩を味わう 詩の表現技法 世界の表現と拡大			詩の表現技法を知りその効果を学びながら味わい、詩を詠むことで広がる世界を楽しむ			
12							
13							
14	小説・物語を味わう 文体とそこから受ける印象 人物描写			小説や物語文における人物描写に焦点を当て、読解を通じてそれぞれの表現形式の特徴と表現されている内容を味わう			
15							
16	商品名・広告・キャッチコピーから学ぶ ネーミングとその背景 さまざまな広告			企業が消費者の選択や購買行動を促すために練り出した商品名等の発想の面白さやわかりやすさを味わう			
17							
18							
19	絵本を作る 絵本の構想 製作と製本			これまでに学習した表現技法を活かしながら、一つのテーマをもった絵本を製作する。			
20							
21							

22		
23		
24		
25		
26		
27	<p>保育の場において使い分けたい文章と言葉遣い 安心感、信頼感、親近感につながる言葉とは？ 保護者向けのお便り、連絡帳、行事の案内、活動の紹介、依頼、お願い、記録、実践報告</p>	<p>保育者としての配慮をもちながら各種の文章を作成する。自分の文章の特徴を知り効果的に伝えるための注意点を探る。</p>
28		
29		
30		

授業科目名	子ども家庭支援の心理学		担当者	薄井啓子			
			実務経験	小中学校高校でスクールカウンセラーとして勤務経験がある			
教科書	『新基本保育シリーズ 子ども家庭支援の心理学』中央法規出版	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	こども科	2	前期	必修	講義
	30						
授業概要	社会学的・歴史的に概観しつつ、家族の意義、機能、教育的な役割を理解する。また、家族の構成員を生涯発達の途上にある個人として捉えつつ、その心理的特性と発達課題をふまえ、関係性やシステムの持つ力、親と子の精神保健を理解する。						
学習到達目標	・生涯発達という考え方を理解する ・子どもの発達に家族と家庭が重要な役割を果たすことを理解する ・子育て家庭の現状と支援を理解する ・子どもの精神保健とその課題を理解する						
評価方法	受講姿勢、課題、期末試験を総合的に評価する						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	生涯発達における乳児期			初期発達の特徴と保育者の関わり			
2							
3	生涯発達における幼児期			幼児期全体の発達の特徴(認知、言語、社会性、自我を中心に)と保育者の関わり			
4							
5	生涯発達における学童期			学童期の発達の特徴、保育の見通し、以降のプロセス			
6							
7	生涯発達における青年期			青年期の発達の特徴(身体、対人関係を中心に)、青年期の問題行動			
8							
9	生涯発達における成人期・中年期			成人期・中年期のライフイベント、アイデンティティの再体制化			
10							
11	生涯発達における高齢期			高齢期における発達の特徴、社会状況			
12							
13	家庭・家族の意義と機能			家族・親族・世帯、定義と機能の変化			
14							
15	家族関係・親子関係の理解			家族ライフサイクル論、家族システム論、夫婦関係、親子関係、家族への支援			
16							
17	子育て経験と親としての育ち			親として育ちの過程にいる保護者、子育て支援			
18							
19	子育てを取り巻く社会的状況			晩婚化・非婚化、地域における切れ目のない子育て支援			
20							
21	ライフコースと仕事・子育て			男女のライフコースの歴史的変遷、性役割、子育て			

22	多様な家庭とその理解	の葛藤、育児ストレス
23	多様な家庭とその理解	家庭と家族の多様な姿、福祉領域との接点、多様性 に開かれるとは？
24		
25	特別な配慮を要する家庭	家族が抱える困難への理解、養育者のメンタルヘル ス
26		
27	子どもの生活・生育環境とその影響	家庭内の環境、家庭が置かれている環境、子どもに 及ぼす精神的影響
28		
29	子どものこころの健康にかかわる問題	こころの健康の危機と現れ
30		

授業科目名	子どもの食と栄養		担当者	和泉安希子			
			実務経験				
教科書	『子どもの食生活』ななみ書房	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	こども科	2	通年前期	必修	演習
60							
授業概要	子どもの発育、心身の健康と食との関連を理解する。食生活を栄養摂取のみならず健康な生活の基本と位置づけたうえで、保護者への支援を射程に入れた食育の意義、目的、内容を理解する。また、アレルギー等特別な配慮を要する子の食と栄養を理解する。						
学習到達目標	・健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的な知識を学ぶとともに、子どもの発育や発達が乳幼児期からの食生活といかに密接な関連があるかを理解する。・食育の基本を理解するとともに、食育をとりまく様々な環境についても知り、子どもの成長と食育のかかわりを学ぶ。・保育士として子どもの身体状況や栄養状態に応じた食生活の支援ができるよう、食生活・栄養の課題を明確にし、実際の生活に展開できる力を身につける。						
評価方法	受講態度、課題や提出物、期末試験等の総合評価						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	ガイダンス			食生活チェックシートで、自身の食生活の問題点を把握する			
2							
3	子どもの健康と食生活の意義			成人期とは異なる小児期の栄養と食生活の特徴を学び、食育の意義について理解する			
4	(小児期における食生活の重要性 食育の意義)						
5	小児の発育・発達と栄養①			小児の身体発育や食べる機能の発達について理解し、その発達に沿った栄養状態把握の仕方を習得する			
6	(子どもの発育と栄養の関係について)						
7	小児の発育・発達と栄養②						
8	(子どもの発育と栄養の関係について 体と心の発達と栄養・食育)						
9	栄養に関する基礎知識① 栄養・栄養素			栄養・栄養素について理解する			
10							
11	栄養に関する基礎知識② 摂取基準			乳幼児の食事摂取基準を習得する			
12							
13	栄養に関する基礎知識③ 食事の構成と食育			食事構成に関する基礎知識を学び、日常生活における食育の方向性を探る			
14							
15	栄養に関する基礎知識④ 献立と調理			献立・調理の基本を学び、『食事摂取基準』・『食生活指針』を用いた献立作成能力を養う			
16							
17	調理実習事前指導			環境整備・衛生管理について学ぶ			
18							
19							
20							

21	調理実習①(施設実習に向けて)	施設実習に向けて、家庭や児童福祉施設における調理の基礎的な技術を習得する
22		
23	調理実習のまとめ	調理実習を振り返り課題解決する
24		
25	乳児の食生活①(乳児の食機能の発達と成長)	乳児の食機能の発達と成長について理解する
26		
27	乳児の食生活②(乳汁栄養)	乳汁栄養、離乳の意義と乳児期の栄養・食育について理解する ※保育所における食育に関する指針 ※保育所における食事の提供ガイドライン
28		
29	乳児の食生活③(離乳の意義と乳児期の栄養・食育)	
30	まとめ・期末試験対策	

授業科目名	子どもの食と栄養		担当者	和泉安希子							
			実務経験								
教科書	『子どもの食生活第6版』 ななみ書房	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法				
		2									
		時間数	こども科	2	通年 後期	必修	演習				
60											
授業概要	子どもの発育、心身の健康と食との関連を理解する。食生活を栄養摂取のみならず健康な生活の基本と位置づけたうえで、保護者への支援を射程に入れた食育の意義、目的、内容を理解する。また、アレルギー等特別な配慮を要する子の食と栄養を理解する。										
学習到達目標	・健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的な知識を学ぶとともに、子どもの発育や発達 が乳幼児期からの食生活といかに密接な関連があるかを理解する。・食育の基本を理解するとともに、食育を とりまく様々な環境についても知り、子どもの成長と食育のかかわりを学ぶ。・保育士として子どもの身体状況 や栄養状態に応じた食生活の支援ができるよう、食生活・栄養の課題を明確にし、実際の生活に展開できる力 を身につける。										
評価方法	受講態度、課題や提出物、期末試験等の総合評価										
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など							
31	調理実習事前指導(環境整備)			環境整備・衛生について学ぶ 献立作成・調理の基本 を理解する 様々な生活場面での食事と栄養につ いて理解を深める							
32											
33	食事摂取基準と献立作成・調理の基本										
34	家庭や児童福祉施設における食事と栄養										
35	調理実習①(離乳食 家庭における食事と栄養)			『離乳食』・『幼児食』の調理を通じて、それぞれの調 理技術を学ぶ 離乳期・幼児期の食事の与え方等、 この時期の食生活について理解を深める 家庭や児 童福祉施設における献立作成・調理における注意 点を把握する							
36											
37											
38											
39	調理実習②(幼児食 食生活指導)										
40											
41											
42											
43	幼児期の食生活①(食機能の発達と成長)			幼児期の食機能の発達と成長、この時期の食育の意 義を学び、課題と問題点を把握する ※保育所における食育に関する指針 ※保育所における食事の提供ガイドライン							
44											
45	幼児期の食生活②(栄養・食育)										
46											
47	学童期・思春期の食生活①(心身の特徴)							学童期・思春期の心身の特徴、この時期の食育の意 義を学び、課題と問題点を把握する			
48											
49	学童期・思春期の食生活②(食育の意義)										
50											

51	学童期・思春期の食生活③(学校給食と食育・栄養教育)	学校給食の意義を理解する
52		
53	生涯発達と食生活(発育・発達の概念)	ライフサイクルと食生活について理解を深める
54		
55	特別な配慮を要する子どもの食と栄養① (疾病及び体調不良の子どもへの対応)	特別な配慮を要する子どもの食と栄養について、 様々なデータも踏まえ理解を深める その上で楽しく・おいしく食事できるための環境づくりについて考える ※保育所におけるアレルギー対応ガイドライン
56		
57	特別な配慮を要する子どもの食と栄養②(食物アレルギーのある子どもへの対応)	
58	特別な配慮を要する子どもの食と栄養③(障がいを持つ小児の食生活)	
59	保育所・幼稚園等での食育の実践	家庭・児童福祉施設における食育の進め方について理解を深める
60	総まとめ	

授業科目名	保育の計画と評価		担当者	工藤愛美			
			実務経験	保育所で保育士として勤務経験がある			
教科書	『新基本保育シリーズ 教育・保育カリキュラム論』中央法規出版	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	こども科	2	前期	必修	講義
30							
授業概要	発達をふまえた保育の課程を構成する、全体的な計画・長期短期の指導計画の役割と関係について理解する。保育の内容の充実と質の向上のためにこれらの計画を作成し、保育を記録省察していく計画実践評価の循環過程について学ぶ。						
学習到達目標	1. 保育所保育指針を理解した上で具体的な指導計画の作成ができる 2. 保育所における保育の評価とは何かを理解する						
評価方法	出席状況及び授業態度、提出課題、期末試験の総合評価						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	保育における計画の意義			保育の計画の必要性和評価の目的、意義を学ぶ。			
2							
3	日本におけるカリキュラムの基礎理論			保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の変遷について知り、カリキュラムの歴史について学ぶ。			
4							
5	子ども理解に基づく保育の循環			保育カリキュラムの必要性を知り、子どもの理解に基づくPDCAサイクルの循環、保育の質の向上について考える。			
6							
7	幼稚園教育要領・保育所保育指針の変遷			保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の概要について、社会的背景をふまえながら理解を深める。			
8							
9	幼稚園の教育課程の編成の基本原則と方法			幼稚園における教育課程編成の基本と編成の手順について知る。			
10							
11	保育所・認定こども園等の全体的な計画の作成の基本原則と方法			保育所・認定こども園における全体的な計画の基本と編成の手順について知る。			
12							
13	幼稚園の指導計画の作成			幼稚園における指導計画の作成の仕方を学び、作成上の留意事項について理解する。			
14							
15	保育所・認定こども園の指導計画の作成			保育所・認定こども園における指導計画の作成の仕方を学び、作成上の留意事項について理解する。			
16							
17	保育の評価と改善			保育の評価の側面と重要なポイントについて学ぶ。また、自己評価とは何かを知り、保育の質について考える。			
18							
19	指導計画の書き方			長期の指導計画と短期の指導計画について学び、指導計画の必要性について理解する。			
20							
21	0歳児の指導計画						

22	〇歳児の指導計画	
23	1歳以上3歳未満児の指導計画	各年齢の発達過程を捉えた指導計画について理解を深め、子どもの変化に応じた柔軟な保育の展開と子どもの実態に即した保育内容の見直しについて学ぶ。
24		
25	3歳児・4歳児の指導計画	
26		
27	5歳児の指導計画	生活と発達の連続性を踏まえた保育所児童保育要録の概要を知る。
28		
29	小学校との接続	幼児期の教育と小学校教育の特性について理解し、円滑な接続に向けた取り組みについて考える。
30		

授業科目名	保育内容健康		担当者	伊藤 基			
			実務経験	保育所で保育士として勤務経験がある			
教科書	「演習 保育内容 健康 大人から子どもへつなぐ健康の視点」萌文書林	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	こども科	2	前期	必修	演習
	30						
授業概要	乳幼児期は、生涯を見据えた心身の基礎を作る重要な時期であるため、保育者は子どもの健康を守り育てるためには、保育現場で子どもの発育発達を捉え、内容について指導し支援することが効果的であることを理解することが必要である。そのために、子どもの個々の健康状態の評価や能力を多領域から理解することを学ぶ						
学習到達目標	乳幼児期の健康に関する幅広い知識と個々の発育発達の状態に合った配慮の仕方について理解をする。また、子どもが健康でたくましく育つための具体的な方法について、現代社会の子どもを取り巻く生活環境にも目を向けながら積極的な健康づくり指導を理解する。						
評価方法	授業参加態度。授業内課題への取り組みの姿勢・提出物の状況・期末試験を総合的にみて評価する。						
時数	授 業 内 容		到達目標・学習課題など				
1	オリエンテーション		保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領のねらいと内容の理解をする。また、保育の意義と児童観について理解をする。				
2	領域「健康」の意味を理解する。						
3	発達過程に応じた保育、全体計画編成の基本を理解する。		乳幼児の心身の発達発育、幼児期の形態的発育・機能的発育について理解をする。また、発達・発育に応じた計画編成の基本を理解をする。				
4							
5							
6							
7	子どものこころの健康について理解をする。		子どものこころの健康、こころの発達とストレスのサインについて理解をする。また、子どもの虐待状況について理解をする。				
8							
9	基本的な生活習慣の獲得について理解をする。		食育に関する指導案を作成し、幼児の健康理解を図る。				
10							
11							
12							
13	子どもの遊びと発達と健康について理解をする。		発達に応じた指導案の作成をし、模擬保育を行う。また、模擬保育の振り返りから幼児の遊びを豊かにする保育者の役割について理解をする。				
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							

21	子どもに危険回避能力を育むための紙芝居を作成する。	子どもの視点に立ち危険を予測し、子どもの年齢にあったわかりやすい紙芝居を作る。
22		
23		
24		
25	完全管理と安全教育について理解をする。	交通安全指導、避難訓練の意義について理解し、ケガや病気などの体調の変化に対する処置法を学ぶ。
26		
27	健康と自然環境の理解をする。	園外保育の活動内容の理解と園外保育の留意点について理解をする。
28		
29	保育内容健康のまとめ	これまでの学びのまとめ
30		

授業科目名	保育内容環境		担当者	小松千晶			
			実務経験	保育所で保育士として勤務経験がある			
教科書	『新 子どもと環境 実技・実践編』三晃書房	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	こども科	2	前期	必修	演習
30							
授業概要	5領域と領域「環境」、領域「環境」のねらいと内容、指導上の留意点。領域環境に係る幼児の発達や学びの過程の理解。保育実践の原則をふまえた具体的な保育の構想、教材や情報機器の効果的な活用。作成した指導案に基づく模擬保育と振り返り。小学校教育の接続。						
学習到達目標	領域「環境」がわかり、領域環境に関わるねらいを達成するための幼児の発達や学びの過程をふまえた保育実践ができる。						
評価方法	受講態度や、課題解決学習、単位認定試験結果等を総合的に評価する						
時数	授業内容			到達目標・学習課題など			
1	幼稚園教育の基本と5領域および各領域の特色・ねらいと内容の理解			幼稚園教育の基本・5領域と領域「環境」ねらいと内容、(演習)、要領以外に必要なねらい内容を考える			
2	保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における「環境」の位置づけ						
3	"						
4	幼児期の特性や幼児の発達をふまえた保育			幼児期の特性、領域環境のねらいと内容にかかわる乳幼児の発達、幼児の発達に沿ったねらいと内容の具体化(自然や身近な事象に対する興味、関心、生命観、命の尊さや伝承遊び、わらべ歌他)			
5	"						
6	教材や情報機器の活用			園庭や近隣の動植物、その他の自然事象・事物・器材・絵本・情報機器			
7	領域「環境」に関わる保育の指導計画			領域「環境」のねらいを達成する保育実践の4原則・指導上の留意点			
8	指導計画・指導案(日案)の作成			指導計画の構成・領域環境のねらいを設定し、保育実践の4原則をふまえた指導案(日案)を作成する			
9	"			指導のねらいを捉え、見通しをもった計画を立てることができるようになる			
10	模擬保育と評価改善			作成した指導案を用いた模擬保育			
11	"						
12	領域「環境」のねらいを達成する保育実践例			三歳児の砂場遊び・伝統や文化に触れる実践事例他			
13	4歳児の七夕遊びに関わる領域「環境」のねらいと内容と、他領域のねらいと内容の設定			環境構成を考え、活動の展開を予想したり、保育士の援助を考える。グループワーク(発表、指導、助言)			
14	"						
15	小学校との連続性と領域「環境」に関わる保育の課題			小学校教育の連続性・環境問題から・幼児にもわかる、幼児でもできるSDGsの活動			
16	子どもと環境のまとめ			領域「環境」と保育環境の違いを知る。3つのねらいと内容			
17	人間の生活と環境の変化			環境の変化に伴う問題点と課題			
18	"			"			
19	保育所(園庭・保育室)における「環境づくり」の重要性			保育所の環境づくりの重要性と照らしながら、保育現場での具体例について考える			

20	〃	〃
21	動植物に関する環境指導のあり方と実践	動植物や天気、石・砂・土・光・音などの自然事象、遊具や用具、紙やプラスチック製品などの人口素材、人の生活やそれにかかわる施設・設備、各種の行事や情報等を含む社会事象、数量・図形・文字等を対象とした活動を想定し、それらに関する環境指導のあり方と実践について、演習を通して理解を深める
22	・生活や遊びに取り入れる際の事前準備と配慮事項	
23	・自然事象に関する環境指導のあり方と実践	
24	『地域』に関する環境指導のあり方と実践	
25	・地域の行事への参加	保育者は子どもの活動環境としてどのような場所や素材等を準備していく必要があるのか、また、子どもがその環境に自発的・主体的にかかわっていく道筋について考え、保育実践に繋げていく
26	『情報・数量・図形』『物・用具』に関する環境指導のあり方と実践	
27	・生活や遊びへの取入れ方とその展開	
28	・廃材を使った玩具作りと遊びの展開	
29	春夏秋冬の生活と季節を捉えた遊びの展開について	指導のねらいを捉え、見通しをもった計画を立てることができるようになる
30	指導計画案作成のポイント	

授業科目名	保育内容表現		担当者	小松千晶・大友美悠希			
			実務経験	保育所で保育士として勤務経験がある			
教科書	『事例で学ぶ保育内容 領域表現』 萌文書林	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	こども科	2	前期	必修	演習
30							
授業概要	領域「表現」に関連して、生活や遊びのなかの子どもの実態を把握するため、保育内容を組み立てて実践するための知識・技術・判断力の習得を目指す。発達過程にふさわしいねらいの立て方、教材の活用、環境構成、配慮事項について、演習を通じて具体的に学ぶ。						
学習到達目標	乳幼児期における表現の発達について理解を深める 発達に応じた保育演習を通して子どもたちの表現あそびが生き生きと展開されるような実践力を習得する						
評価方法	演習・模擬保育実技テスト						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	<幼児教育の基本> ▽幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における幼児教育の捉え方とは ▽これからの0-2歳児保育▽幼児教育の目的と領域▽環境を通じた保育▽幼児教育の基本▽保育者の様々な役割▽幼児教育と領域表現			幼児教育における領域表現の基本的な考え方を理解し、保育所保育指針の理念について学びを深める 保育における領域の考え方について理解する			
2							
3							
4							
5	<乳幼児期の発達と表現> ▽感性と創造性を育む▽豊かな表現を支える援助や環境▽乳幼児の表現が育つ基盤			発達時期ごとの表現の特性の理解を深める 表現の発達を支える環境のあり方について学ぶ			
6							
7	<生活のなかにあるものをあじわい、感性を養う> ▽色▽形▽歌▽動き▽手触り▽ともにあじわい表現する			子どもの感性を養うことで表現の幅が広がることを学ぶ 表現の豊かさは保育者や友だちとの関わりによって深まることを知る			
8							
9	<保育者が支える表現> ▽表現を支える保育者の基本的なあり方▽豊かな表現を支える援助や環境			子どもが表現することを捉えた保育について学ぶ			
10							
11	<子どもの豊かな感性と音楽表現> ①楽器あそび演習 (リズム楽器、鉄琴、大太鼓、小太鼓等の鳴らし方を知り、グループで曲に合わせて分担奏をする) ②表現あそび演習 (年齢を考慮したリズム表現、楽器を使った表現あそびを行う)			楽器の鳴らし方を知り、グループに分かれて曲に合わせた分担奏を考えて発表する			
12							
13							
14							
15	<未満児の表現あそびについて 計画と実施> 保育の流れを考え、指導案を作成する 模擬保育の準備をする 模擬保育を行う(実技テスト) 改善点を探る			年齢に応じた表現あそびの模擬保育を行い、子どもの豊かな表現をひき出す保育のあり方について演習を通して実践力を習得する			
16							
17							
18							
19							
20							
21							

22	<p><以上児の表現あそびについて 計画と実施></p> <p>保育の流れを考え、指導案を作成する</p> <p>模擬保育の準備をする</p> <p>模擬保育を行う(実技テスト)</p> <p>改善点を探る</p>	
23		
24		
25		
26		
27	<p><これまでのまとめと考察></p>	<p>これまでの学びのまとめ</p> <p>記述問題に関する考察</p>
28		
29	<p><領域「表現」の現代的課題と新たな試み></p>	<p>「表現する意欲」を育む保育のあり方について学ぶ</p>
30		

授業科目名	音楽表現演習Ⅱ		担当者	山田瑠璃子・諏訪恵理			
			実務経験	民間のピアノ教室で指導者としての経験がある			
教科書	『一人一人を大切にするユニバーサルデザインの音楽表現』萌文書林、『わくわく音遊びでかんたん発表会』すずき出版	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	こども科	2	前期	必修	演習
		30					
授業概要	一年次の「音楽表現演習Ⅰ」を基に知識・技術の深化拡大を図ると共に、乳児における3視点と1歳以上児における5領域のなかに、学習内容を活かす方法を探りながら、保育における音楽表現を生活と遊びの豊かさという観点で捉え直すことを目標とする						
学習到達目標	音と音楽表現についての理解を深め、保育現場で実践できる力を身につける						
評価方法	①授業への取り組み ②発表の実演						
時数	授業内容		到達目標・学習課題など				
1	保育で使用する子どもの歌の弾き歌い①		保育園でよく歌われる季節、行事、あいさつに関する歌を覚える				
2							
3	「表現」についての基本的な考え方		「表現」についての基本的な考え方を学ぶ				
4							
5	身体表現①(リトミック)		基礎リズムパターンを理解する				
6							
7	身体表現②(基本動作)		身体を使ったリトミックを実践する				
8							
9	音楽表現・身体表現		時代の進化に合わせた保育における振付等の指導法を実践する				
10							
11	オリジナル楽器の製作		保育で使用するオリジナル楽器を製作する				
12							
13	言語表現		保育におけるイメージと動き、言葉の結びつきを学ぶ				
14							
15	表現する力を育てるための保育者の役割と援助 絵本に音をつける①		音を付けた絵本の読み聞かせを通して保育者の役割と援助のあり方を学ぶ				
16							
17	リズム表現①		リズム楽器の演奏法を学ぶ				
18							
19	保育で使用する子どもの歌の弾き歌い②		楽譜に正確に演奏し、豊か声量、正確な音程で弾き歌いをする				

20		
21	絵本に音をつける②	絵本に合った音を探す
22		
23	リズム表現②	リズム楽器を使って合奏する
24		
25	絵本に音をつける③ (完成)	実際に音をつけて絵本の読み聞かせを実演する
26	保育で使用する子どもの歌の弾き歌い③ (完成)	子どもと歌うことを想定し、表現豊かに弾き歌いをする
27	「音楽表現演習Ⅱ」発表会に向けたリハーサル	発表会に向けて、リハーサルを行う
28		
29	「音楽表現演習Ⅱ」発表会	音楽表現Ⅱで学んだことを発表する
30		

授業科目名	児童文化演習		担当者	日野つね子			
			実務経験	保育所で保育士として勤務経験がある			
教科書	『演習「児童文化」保育内容としての実践と展開』萌文書林	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	こども科	2	前期	必修	演習
30							
授業概要	保育所保育指針や幼稚園教育要領の領域「言葉」を踏まえ、児童文化財がこどものことばの育ちにどのように役立つのかを理解する。また保育の現場で活用出来る児童文化財(ペープサート、パネルシアター、絵本、紙芝居、手遊び、おはなし等)について知識を深め、実技を通じ技術を習得する。						
学習到達目標	・児童文化財とことばの育ちについて学ぶ ・児童文化財の利用の仕方について学び、児童文化財のそれぞれを保育に生かせるような実践力を習得する						
評価方法	授業出席状況(出席率、態度、積極性)、実技試験、レポート、定期試験を総合的に評価						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	授業概要説明 ・言葉の機能と言葉の発達①			言葉にはどのような機能があり、こどもの言葉はどのように発達するのかを学ぶ			
2	・言葉の機能と言葉の発達②			こどもの言葉の発達における保育者の役割を理解する			
3	・領域「言葉」のねらい及び内容			5領域の中における領域「言葉」を理解する			
4							
5	・ことばを育てる児童文化財－児童文化財とは			児童文化財とは何かどんな種類があるかを理解する			
6	・ことばを育てる児童文化財① ペープサート:特徴、作り方、演じ方、実技試験 パネルシアター:特徴、作り方、演じ方、実技試験			ペープサート、パネルシアターの特徴や絵人形の作り方演じ方の基本を理解し、実践力を習得する			
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17	・ことばを育てる児童文化財②			絵本、紙芝居の特徴や読み聞かせの留意点を学び読み聞かせの実践力を習得する			
18	絵本:特徴、読み聞かせの絵本の選び方、読み聞かせ方						
19	紙芝居:特徴、読み聞かせの紙芝居の選び方、読み聞かせ方						
20							
21	・ことばを育てる児童文化財③ おはなし			おはなしとは何か、その必要性や語り方を学ぶ			

22		
23		
24	<p>・ことばを育てる児童文化財④</p> <p>わらべうた、あそびうた(手遊び)</p>	<p>わらべうた、あそびうたの特徴、重要性、実践のあり方を学ぶ</p>
25		
26		
27	<p>・ことばを育てる児童文化財⑤</p> <p>おもちゃ</p>	<p>おもちゃの意義や年齢に応じたおもちゃの種類と選び方について学ぶ</p>
28		
29	ことばを育む教材について	ことばを育む教材の制作の方法を学ぶ
30	保幼小連携について	保幼小の連携の重要性と「言葉」「言語表現」における連携の実際について学ぶ

授業科目名	乳児保育Ⅱ		担当者	日野つね子			
			実務経験	保育所で保育士として勤務経験がある			
教科書	『改訂 乳児保育の基本』 萌文書林	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	こども科	2	前期	必修	演習
30							
授業概要	3歳未満児の発育と発達、養護と教育の一体性への理解を基にして、生活・遊び・環境の望ましいあり方、配慮・援助・関わりの実際について具体的に学ぶ。さらに、子どもの実態に即した個別的な指導計画と集団の指導計画の作成、長期短期の指導計画作成について具体的に学ぶ。						
学習到達目標	1. 3歳未満児に応じた援助や関わりの方的な考え方について理解する 2. 3歳未満児の生活や遊びと保育の方法及び環境について具体的に学ぶ 3. 乳児保育における配慮の実際について理解する 4. 乳児保育における計画の実際について理解する						
評価方法	授業出席態度、授業内課題への取り組み、期末試験を総合的に評価						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	○ 乳児保育の基本 ・乳児の主体性を尊重した生活と遊びの展開 ・一人ひとりの子どもの発達過程に沿った対応の基本と子どもを理解した援助			“なぜ主体性を大切にするのか”“主体性を尊重する保育とは”を理解する 環境の重要性を理解する 乳児期の発達過程の全体像をとらえる			
2							
3							
4							
5	DVD視聴「赤ちゃん-運動発達の神秘-」			乳児の運動能力の発達を理解する			
6	まとめ						
7	○ 生活や遊びを通しての保育とその環境 ・生活や遊びを通して行う保育 ・生活や遊びの環境 ・健康で安全な環境			乳児の日課を理解し、生活や遊びにおける保育者による援助や関わりを学ぶ			
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17	○ 乳児の発育発達を踏まえた生活と遊びの実際 ・0歳児の保育の実際 ・1・2歳児の保育の実際			子どもの発達を尊重した環境、環境構成、援助のあり方を学ぶ			
18							
19							
20							
21							

22		
23		
24		
25	○ 保育の全体的な計画と指導計画の実際 ・3歳未満児の指導計画 ・指導計画作成の実際	3歳未満児の保育の計画の構造を理解し、指導計画の手順を学ぶ
26		
27		
28		
29		
30	まとめ 「乳児保育Ⅱ」を学んで	振り返りをする

授業科目名	社会的養護Ⅱ		担当者	石神美環子			
			実務経験	宮城県子ども教育相談の電話相談員として勤務経験がある			
教科書	『新 基本保育シリーズ 社会的養護Ⅱ』中央法規出版	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	こども科	2	前期	必修	演習
30							
授業概要	科目「社会的養護Ⅰ」で学んだことをふまえ、施設・家庭養護における日常生活支援、治療的支援、自立支援の内容、計画作りと評価の方法を学ぶ。現状の課題から特に児童と保護者に対する包括的な支援と援助技術的側面の向上について学ぶ。						
学習到達目標	社会的養護における子どもの権利擁護とは何か、社会的養護において大切なことは何かを理解する。						
評価方法	出席状況及び授業態度、提出課題、期末試験の総合評価						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	社会的養護における子どもの理解			演習を通して、子どもの権利擁護と規則の関係について考える			
2							
3				社会的養護を必要とする子どもの背景と実態について考える			
4							
5	日常生活支援について			日常生活支援の在り方と大切さを理解する			
6							
7	治療的支援について			心理的支援の特徴と考え方について理解する			
8							
9	自立支援について			自立支援とは何か、その視点と方法を知る			
10							
11	施設養護の生活特性及び実際			種々の施設の特性と支援の実際を理解する			
12							
13				種々の施設の特性と支援の実際を理解する			
14							
15	家庭養護の生活特性と及び実際			家庭養護の生活特性と実際について理解する			
16							
17	アセスメントと個別支援計画の作成			アセスメントとは何かを理解し、個別支援計画を作成できるようになる			
18							
19	記録及び自己評価			記録の意義と自己評価の必要性を知る			
20							
21	保育の専門性に関わる知識・技術とその実践			社会的養護における保育士の意味と役割を理解する			

22	保育士としての関与の知識・技術としての実践	社会的養護における保育士の役割と役割と性質
23	社会的養護に関わる相談援助の知識・技術とその実践	ソーシャルワークについて理解し、基本的な知識と技術を学ぶ
24		
25		
26		
27	社会的養護における家庭支援	家庭を支援するとはどういうことか考え、その方法を理解する
28		
29	社会的養護の課題と展望	社会的養護の課題と解決に向けた取り組みの実際を知る
30		

授業科目名	子育て支援		担当者	阿部美帆			
			実務経験	保育所で保育士として勤務経験がある			
教科書	『子育て支援 15のストーリーで学ぶワークブック』萌文書林	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	こども科	2	後期	必修	演習
30							
授業概要	子ども子育て支援新制度の理解を前提とし、入所児の保護者のみならず地域の全ての子育て家庭に対して、個別の事情を捉えつつニーズを把握し支援するための関係形成、支援の展開方法と評価、他の職員と専門機関や自治体との協働について学ぶ。						
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援の意義と価値について理解を深める ・子育て支援の実践における専門的技術を習得する ・子育て支援(保育相談)の演習を通して保護者との信頼関係に基づいた実践力を習得する 						
評価方法	課題・演習(作文・グループディスカッション・報告書・ロールプレイ)ワークシート・期末筆記テスト						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	レッスン1 子育て支援とは			子育て支援の制度的基盤について理解する			
2	レッスン2 子育て支援の意義・貧困と虐待の現状と課題			子育て支援が求められる社会的背景について把握する			
3	レッスン3 子育て支援の基本的価値・倫理			保護者との信頼を築くための心構えと態度を学ぶ			
4	ワークシート1, 2, 3 作文課題「自分が受けた子育てについて」			レッスン1,2,3の学びの確認と作文課題について考える			
5	レッスン4 子育て支援の基本的姿勢			子育て支援を行うための基本的姿勢を習得する			
6	レッスン5 子育て支援の技術			子育て支援のプロセスと必要なコミュニケーション技法を学ぶ			
7	レッスン6 園内・園外との連携と社会資源			身近な地域で子育て支援で活用できる社会資源を把握する			
8	ワークシート4,5,6 グループディスカッション「実習園での連携について」			実習先での子育て支援の連携の仕方について振り返る			
9	レッスン7 記録・評価・研修			記録の書き方や報告書の作成について理解する			
10	模擬研修・報告書の作成			模擬研修後、報告書の作成を行う			
11	レッスン8 日常会話を活用した子育て支援			保育場面に応じた保護者とのコミュニケーションについて学ぶ			
12	ワークシート7,8 作文課題「望ましい人間像について」			レッスン7,8の学びの確認と、子育て支援を行う望ましい人間像について考える			
13	レッスン9 文書を活用した子育て支援 ワークシート9			様々な種類の文書があることを知り、書き方の基本を習得する			
14	ロールプレイ①保護者対応(友だちとのけんか)			事例を元に保護者対応についてロールプレイを通して学ぶ			
15	レッスン10 行事などを活用した子育て支援 ワークシート10			保護者が参加する行事の意義について理解する			
16	ワークシート9,10 ロールプレイ②保護者対応(離乳食)			レッスン9,10の学びの確認と、事例を元に保護者対応についてロールプレイを通して学ぶ			
17	レッスン11 環境を活用した子育て支援			子育て支援における環境の意義と特性を理解する			
18	レッスン12 地域子育て支援拠点における支援			地域子育て支援拠点での保護者との関わりを学ぶ			
19	ワークシート11,12「児童相談所について」			レッスン11,12の学びの確認と、自分の地域の児童相談所について調べ、まとめる			
20	「児童相談所について」発表			作成したパンフレットをもとに、保護者にもわかりやすい説明の仕方を考える			
21	ロールプレイ③保護者対応(離婚に伴う子どもへの影響)			ロールプレイを通して保護者対応の重要な点について学ぶ			

22	レッスン13 入所施設における子育て支援	入所施設を利用する保護者との関わり方を学ぶ
23	レッスン14 通所施設における子育て支援	通所施設における子育て支援の基本について学ぶ
24	ワークシート13,14「気になる子」とは？	レッスン13,14の学びの確認と、保育における「気になる子」への学びを深める
25	ロールプレイ④保護者対応(発達の遅れ)	事例を元に保護者対応についてロールプレイを通して学ぶ
26	保育相談実技(事例検討)	事例をもとに保育相談の事例検討を行う
27	保育相談実技(保護者対応)	事例を元に保育相談の保護者対応を行う
28	レッスン15 まとめと今後の課題	子育て支援における自分の課題を探る
29	苦情解決について	保護者の苦情解決のケースについて理解する
30	ワークシート15、まとめ	レッスン15の学びの確認と、授業のまとめを行う

授業科目名	保育実習Ⅰ(保育所)		担当者	伊藤基・大友美悠希			
			実務経験	保育所で保育士として勤務経験がある			
教科書	『新保育ライブラリ 保育の現場を知る 保育所実習』北大路書房	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	こども科	2	後期	必修	実習
90							
授業概要	保育所の役割と機能、保育士の倫理と職務内容、保育実践における観察、記録、援助の内容と方法について、保育現場での観察、参加、保育実践を通して学習し保育実践力の基礎を学ぶ。また、園全体の保育計画を基にした週や日の指導計画案の作成を通して、実践と計画の関係を学ぶ。						
学習到達目標	①保育所等の役割や機能を具体的に理解する。②観察や子どもとのかかわりを通して子どもへの理解を深める。③既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。④保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。⑤保育士等の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。						
評価方法	評価票をもとにした実習施設の評価と巡回指導者評価の総合評価とする。						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1～3	<p><観察・参加実習></p> <p>①保育所等での乳幼児の姿を観察する。</p> <p>②保育士等の援助行動について観察し、保育に参加する。</p> <p>③環境構成について観察する。</p> <p><参加・部分実習></p> <p>①保育の環境を整備する。</p> <p>②自由遊び場面では、子どもと一緒に遊ぶことを通して子どもを理解するための手がかりを得る。</p> <p>③クラス保育の場面では、担当保育士等の要請に従い、保育士等の補助をしながら、クラス活動の流れを理解する。また、担当保育士等の指示に従い、保育の一部分の実践を担当する。</p> <p>④生活援助全般について年齢別に体験する。</p> <p><指導実習(部分実習)></p> <p>担当する時間の指導案を担当保育士等の指導のもとに作成し、保育を実践する。</p> <p>①日常繰り返す活動の実習</p> <p>②時間的に連続した2, 3の活動の実習</p> <p>③ある程度まとまった時間の活動の実習</p>			<p>保育所保育指針や幼保連携型認定こども園教育・保育要領に照らしながら、保育所における保育について理解を深める。</p> <p>保育の実際に接し、また子どもとのかかわりを通して、乳幼児の発達と保育所保育の意義について理解する。</p> <p>健康安全への配慮、子育て支援等の実際について学ぶ。</p>			
4～6							
7～9							
10～12							
13～15							
16～18							
19～21							
22～24							
25～27							
28～30							
31～33							
34～36							
37～39							
40～42							
43～45							
46～48							
49～51							
52～54							
55～57							
58～60							

61～63	
64～66	
67～69	
70～72	
73～75	
76～78	
79～81	
82～84	
85～87	
88～90	

授業科目名	保育実習 I (施設)		担当者	大友美悠希・伊藤基			
			実務経験	乳児院で保育士として勤務経験がある			
教科書	『新保育ライブラリ 保育の現場を知る 施設実習』北大路書房	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	こども科	2	前期	必修	実習
90							
授業概要	保育所以外の児童福祉施設・障害者施設の役割と機能、保育士の倫理と職務内容、生活支援・就労支援における観察、記録、援助の内容と方法について、観察、参加を通して学習し実践力の基礎を学ぶ。また、施設全体の計画と個別指導計画の関係について学ぶ。						
学習到達目標	①実習施設の概要と機能及び役割を、体験を通して理解する。②多様で広範な職員の職務内容や役割、職業倫理を理解する。また、施設で働く上で、チームアプローチが基本であり、職員間の協力と連携が必要不可欠であることも理解する。③子ども・利用者とその支援(養護)について理解する。また、子ども・利用者の特性を理解し、一人一人に応じた支援(養護)の大切さを学ぶ。④施設における計画や記録、評価の方法について学び、自らの実習に関しての記録に基づく振り返りや自己評価の必要性について理解する。						
評価方法	評価票をもとにした実習施設の評価と巡回指導者評価の総合評価とする。						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1～3	【養護系の施設】 <観察実習> ・施設の実態を、客観的に把握することをねらいとし、生活の流れを理解するとともに、子どもと一緒に過ごすことにより、保育士や他職種の援助内容を理解する。 <参加実習> ・保育士や職員の補助的立場で養護活動に直接参加し、体験的に学習する。 <指導実習(部分実習)> ・保育士の職務の一部を担当することにより、養護の実際を体験する。			実習施設における職員の業務を体験することにより、実習施設の機能や役割等を理解する。 実習施設における職員の役割と職務内容を具体的に理解する。 体験を通じこれまで学んできた知識や技術の一層の向上を図る。			
4～6							
7～9							
10～12							
13～15							
16～18							
19～21							
22～24							
25～27							
28～30							
31～33							
34～36							
37～39							
40～42							
43～45							
46～48							
49～51							
52～54							
55～57							
58～60							

61～63	
64～66	
67～69	
70～72	
73～75	
76～78	
79～81	
82～84	
85～87	
88～90	

授業科目名	保育実習指導 I-B		担当者	大友美悠希・伊藤基			
			実務経験	乳児院で保育士として勤務経験がある			
教科書	『新保育ライブラリ 保育の現場を知る 保育所実習』北大路書房、 『新保育ライブラリ 保育の現場を知る 施設実習』北大路書房、 『DVD+CD たのしい手あそびうた (ナツメ幼稚園・保育園BOOKS)』ナツメ社	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
	時間数	こども科	2	前期	必修	演習	
							30
授業概要	保育実習 I-Aでの学びを踏まえ、実習事前指導で身につけた知識や技術を再確認し、実習の目標を明確にする。実習計画・観察・実践・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。実習事後指導を通して実習の反省と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。						
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・実習事前指導を通して、身につけた知識や技術を再確認し、実習の目標を明確にする。 ・実習計画、観察、実践、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。 ・実習事後指導を通して実習の反省と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。 						
評価方法	保育実習(施設)の事前指導・事後指導に関する提出物や取り組み状況、課題等による総合評価。						
時数	授業内容			到達目標・学習課題など			
1	オリエンテーションでのチェックポイント			<ul style="list-style-type: none"> ・実習の目的や意義、各施設種別の概要などを再確認し、学ぶべき課題を明確にしたうえで、自身の目標を立て実習事前準備等を行う。 			
2	・オリエンテーションの依頼から参加の心構えとポイントまでを再確認する。 ・オリエンテーションでの確認事項について						
3	実習の段階とそれぞれの流れ						
4	・観察実習、参加実習、部分実習、全日実習の実習内容について理解する。						
5	実習の手順と内容(実習前→実習中→実習後)						
6							
7	実習前の再学習と準備						
8	・自分の目標にあわせた事前学習や事前準備の必要性について学ぶ。						
9	施設実習について(養護系の施設と障害系の施設)						
10	・児童対象の施設と障害児(者)のいる施設での実習目的や留意事項を理解する。						
11	特別の配慮を要する子どもについて						
12	・統合保育と障がい再確認する。 ・被虐待児の問題点について考える。						
13	実習日誌について						
14							
15							
16							
17	各施設のデイリープログラムと指導計画について			<ul style="list-style-type: none"> ・各施設のデイリープログラムと指導計画について再確認する。 ・指導案(日案)の書き方を習得する。 			
18							
19							

20		
21		
22	<p><実習事前準備> ・種別や実習施設、個人の課題に合わせた個別指導を行う。</p>	<p>・個別指導のもと、実習までに必要な事前準備を行う。</p>
23		
24		
25		
26	<p>実習事後指導・実習報告会 ・実習お礼状の作成と振り返り ・実習で行った内容・反省事項・学んだことなどをまとめ各自発表をする。</p>	<p>・現場での実体験から、保育士を目指すうえで必要となる自己の課題を明確にし、克服できるようにする。</p>
27		
28		
29		
30		

授業科目名	保育実践演習		担当者	工藤愛美			
			実務経験	保育所で保育として勤務経験がある			
教科書	『保育・教職実践演習 学びの軌跡の集大成を目指して(乳幼児教育・保育シリーズ)』光生館	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	こども科	2	通年前期	必修	演習
60							
授業概要	保育者に必要な知識、技術、教養、判断力、倫理観が習得形成されたかを振り返る。また、自他の実習体験やその他保育に関する情報を基に、保育現場の視点に立った様々な場面でのリスクマネジメントや保育カンファレンスおよび保育実技を通して実践的指導力を身につける。さらにその中で自己の課題を把握し、向上のための手段と方法を明確化する。						
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> これまでの学びの復習をしながら、「保育・社会的養護・保育者」についての考察と認識を深める 自分自身の課題を把握し、向上のための手段と方法を探る 						
評価方法	出席状況、提出課題、授業内演習での取り組み、レポート、期末試験の総合評価						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	オリエンテーション・保育実践演習で学ぶこと			授業概要を理解し、履修カルテを活用しながら自己評価の設定を行う。			
2							
3	<保育者の職務内容を知る> 【1】 保育者に求められる資質能力を知る			保育者という職業、保育者に求められる資質と能力について知る。また、就学前教育・保育施設の保育者に期待されることについて学ぶ。			
4							
5	【2】 職場を知る			幼稚園、認定こども園、保育所の1日とそれぞれの施設が担うことについて再確認する。			
6							
7	【3】 クラス担任の仕事を知る			クラス担任の職務内容と役割について理解し、自らが大切にしたいこと、重視したいことを整理する。			
8							
9							
10	<保育者としての実践力を磨く> 【4】 人間関係の育ちとクラス運営			一人ひとりの良さを活かすクラス作りと様々なクラス編成について理解を深める。			
11							
12	【5】 特別な支援の必要な子どもとその対応			保育における集団の編成、異年齢保育と統合保育について学ぶ。また、障がいのある子どもや外国籍の子どもなどの受け入れのポイントについて考える。			
13							
14							
15	【6】 保護者との関係構築・地域の子育て支援			事例やグループワークを通して、問題を抱えた全ての保護者を念頭に、対応で大切にしたいことについて考える。			
16							
17	【7】 幼保小連携			幼稚園、認定こども園、保育所から小学校へのなめらかな接続について具体的に学ぶ。			
18							
19	【8】 健康な園生活をつくる			乳幼児期の健康と関連の深い「アレルギー」「食育」「睡眠」「感染症」等について取り上げ、保育者が特に注意しておくことを整理する。			
20							

21	【9】 安全な園生活をつくる	園における安全に関する教育の内容を整理して確認するとともに、保育を展開するうえで危険を想定して対応していくことについて学ぶ。
22		
23	< 保育者の専門性を向上させる > 【10】教材研究する力をつける	実習の経験等を通して、子どもの姿から教材研究を振り返り、改善していく方策について考える。
24		
25	【11】 保育記録を書く力をつける	保育記録の意義や活かし方、さまざまな記録方法について再確認するとともに、自身の保育を省察し、計画に活かせる実践力を身につける。
26		
27	【12】 研修を通して学ぶ	質の高い教育・保育を行うために必要な保育者の専門性を身につけ、保ち続けるために重要となる研修について考える。
28		
29	【13】 現代的教育課題への対応	多様化する社会で幼児教育・保育が抱えている課題について見つめなおし、幼児教育の将来的展望について考える。
30		

授業科目名	保育実践演習		担当者	工藤愛美			
			実務経験	保育所で保育士として勤務経験がある			
教科書	『保育・教職実践演習 学びの軌跡の集大成を目指して(乳幼児教育・保育シリーズ)』光生館	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	こども科	2	通年後期	必修	演習
60							
授業概要	保育者に必要な知識、技術、教養、判断力、倫理観が習得形成されたかを振り返る。また、自他の実習体験やその他保育に関する情報を基に、保育現場の視点に立った様々な場面でのリスクマネジメントや保育カンファレンスおよび保育実技を通して実践的指導力を身につける。さらにその中で自己の課題を把握し、向上のための手段と方法を明確化する。						
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> これまでの学びの復習をしながら、「保育・社会的養護・保育者」についての考察と認識を深める 自分自身の課題を把握し、再度学びを深める中で向上のための手段と方法を探る 						
評価方法	出席状況、提出課題、授業内演習での取り組み、レポート、期末試験の総合評価						
時数	授業内容			到達目標・学習課題など			
31	オリエンテーション			これまでの現場実習を振り返り、履修カルテを活用しながらその成果と課題をまとめる。			
32	学級経営における保育現場での保育者の対応			保育場面での事例研究をもとに、ロールプレイング、討議、討論などを通して、子どもについて多面的な理解を深める。また、互いの見方や考え方を交流させていくことで、他の保育者と協働して問題を解決する力を身につける。			
33							
34	①クラス作りとクラス担任の役割について						
35	②日常的に発生するクラス内での問題について						
36							
37	③保育場面における課題のある子どもに対する対応について（保護者と連携した対応）						
38							
39	④教育課題の解決に向けた保育者としてのアプローチについて						
40							
41	⑤信頼される保育者となるためのリスクマネジメントについて						
42							
43	自己の振り返り・今後に向けての課題			成長し続ける保育者となるために、これまでの演習を振り返り、今後へ向けての課題を明確化する。			
44							
45							
46	現代の保育で求められる課題と展望			個別の指導計画・支援計画について理解する。また、統合保育の課題と展望について考える。			
47							
48							
49	②「幼保小連携」への対応と連携について			学びの連続性と子どもの生活変化を踏まえた適切な指導の在り方について具体的に考える。			
50							
51							

52	保育計画と模擬保育 ①ある場面の指導計画を作成する。	これまでの学びを整理し、実践に移す準備・計画をする。
53		
54		
55		
56	②模擬保育を行う。	指導計画に基づき、模擬保育を行う。
57		
58		
59	③保育の振り返りを行う。	実践的指導力の習得を目指し、保育職への意欲を醸成する。
60		

授業科目名	保育制度		担当者	町田洋介			
			実務経験				
教科書	資料を配付する	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	こども科	2	後期	選択必修	講義
30							
授業概要	現在の子ども子育て支援新制度に至るまでの、幼児教育・保育の歴史を政治・経済・労働等の社会情勢や思想史と共に、「社会的子育ての営み」として捉え直す。現制度が抱えている課題と今後の展望を、諸外国の事例を参考にしながら検討する。						
学習到達目標	1.社会の要請と保育制度の歴史の変遷を捉えたうえで、現在の保育法令・保育行政について理解する 2.地域子育て支援や障害児支援、また現行制度の境界線上にある支援について、具体的な事例をもとに理解する						
評価方法	小テスト、課題の提出、期末試験による						
時数	授業内容			到達目標・学習課題など			
1	戦前戦後の日本の保育と保育思想の概略 保育制度改革の歴史 保育所の民営化(公立)と民間委託 最低基準の緩和 一般財源化			戦前戦後の社会情勢と保育思想について理解する 特に戦後の保育・幼児教育行政と社会的要請との関係を知る			
2							
3							
4	<子育て支援の政策・制度、受け皿、労働と保育、母子保健> 子ども子育て支援新制度とその制度下のさまざまな施設種別 労働基準法と産婦の労働制限と保育(旧来の日中保育に欠けるとの関係) 母子保健から見る産前産後の母子への支援 内閣府主導の保育事業 待機児童ゼロの政策			現在の保育法令・保育行政を理解したうえで、現実の諸問題を知る			
5							
6							
7							
8							
9							
10	<諸外国の取り組み> OECD,Starting Strong 2017:Key OECD Indicators on Early Childhood Education and Care 等を参考に			諸外国の乳幼児期の教育とケアについて知る			
11							
12	<幼児教育・保育の無償化について 2019年10月から> 教育・保育給付認定とその認定区分、施設等利用給付認定 1,2,3号認定と施設等利用給付認定の違い			制度の内容を理解し、子ども・保護者が受けられる支援内容について理解する			
13							
14							
15							
16							
17							
18	<地域子育て支援拠点事業> 対象となる親子 活動の構成 参加を呼びかける広報や案内の仕方 自由来所する参加者への配慮 継続的な関わりへの配慮			地域子育て支援事業の役割とそこで働く保育者にとっての職務上の配慮などを学ぶ			
19							
20							
21							

22		
23		
24	<p><障害児と共に暮らす家庭への支援> 通所型の特別支援 障害児の養育に関する悩みと支援 ピアカウンセリングの重要性</p>	<p>発達支援センター他の特別な支援への体制と支援の事例を理解する</p>
25		
26		
27		
28		
29	<p><認可外施設や夜間保育が支える子どもの最善の利益> 大人の様々な就労形態と子どもの生活実態</p>	<p>現行制度の境界や限界を理解する</p>
30		

授業科目名	特別支援教育		担当者	阿部美帆			
			実務経験	保育所で保育士として勤務経験がある			
教科書	『実践に生かす障害児保育』 萌文書林	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	こども科	2	前期	選択必修	講義
15							
授業概要	特別な教育的ニーズを持つ子どもを支援するにあたって、子ども自身の特性を理解するのはもちろん、子どもを支援するために必要な社会的資源や関係機関についての知識、個別の教育支援計画の作成方法とその利用方法、教育課程と学びと生活の場のあり方についても理解を深めるよう、特別支援教育に関わる幅広い内容を示す。						
学習到達目標	特別な教育的ニーズのある子どもを含めたすべての子どもが幼稚園・保育園の中でそれぞれの自主性・自発性を発揮し生きる力の基礎を培えるようにするため、特別な教育的ニーズのある子どもの生活等における困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。						
評価方法	レポート、学期末試験、授業態度						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	特別な教育的ニーズを持つ子どもへの教育課程 ①特別な教育的ニーズとは何か			特別支援教育への転換による教育支援システムを理解し、特別な教育的ニーズとは何かを把握する。			
2	特別な教育的ニーズを持つ子どもへの教育課程 ②特別支援教育課程と学びの場			子どもたちの理解と教育的ニーズに応じた支援を考える。			
3	発達障害や軽度知的障害を持つ子どもの特性 ①発達障害や軽度知的障害の心と身体の育ち			発達障害や軽度知的障害とは何かを知り、それぞれの特徴や心と身体の育ちを理解する。			
4	発達障害や軽度知的障害を持つ子どもの特性 ②子ども一人ひとりのニーズに合わせた学び			一人ひとりのニーズをどのように捉えればよいかを学び、支援に必要な視点を考える。			
5	視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害のある子どもの特性 ①多様な子どものニーズの理解			各障がいの特徴とニーズを理解する。			
6	視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害のある子どもの特性 ②多様な子どもの学びと生活			各障がいに対する関わり方や支援方法を理解する。			
7	子どものニーズに合わせた支援 ①教育課程における支援			学習指導要領のねらいとポイントを押さえる。			
8	子どものニーズに合わせた支援 ②通常の学級における担任による支援			事例をもとに、通常の学級における担任の支援方法について考える。			
9	教育チームによる組織的支援 ①個別の指導計画及び個別の教育支援計画			個別の教育支援計画のねらいや作成について知り、指導方法や指導体制の工夫について理解を深める。			
10	教育チームによる組織的支援 ②アセスメントに基づく計画と評価			教育アセスメントとは何かを知り、アセスメントに基づく計画と評価の流れを理解する。			
11	特別支援教育コーディネーター ①特別支援教育コーディネーターの役割			特別支援教育コーディネーターの役割を知る。			
12	特別支援教育コーディネーター ②外部教育資源との連携と協働			特別支援教育コーディネーターによる、外部教育資源との連携・協働について理解を深める。			
13	保護者・家庭支援と連携 ①保護者・家庭をとりまく問題			保護者や家庭が受けるストレスや障害の需要への道筋を把握する。			
14	保護者・家庭支援と連携 ②保護者・家庭とのつながりの重要性			信頼関係を基本とした、保護者や家庭との繋がり的重要性とその実際について事例から考える。			
15	特別な教育的ニーズを考える ①母国語や貧困の問題等による教育的ニーズの理解及び支援			現代的な視点から、外国語を母語とする家庭や貧困問題を抱える家庭に対する理解及び支援を考える。			

授業科目名	メンタルヘルス		担当者	石神美環子			
			実務経験	宮城県子ども教育相談の電話相談員として勤務経験がある			
教科書	『メンタルヘルス不調のある親への育児支援』明石書房	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		時間数					
授業概要	科目「子ども家庭支援の心理学」で扱う、子・親・家族の精神保健の概要をふまえ、日常生活で生じうる心理的危機、その病変と対処治療法の実際について、精神医学、作業療法学の観点から学び、保育者としての分限を守りつつ子・親・家族を支援することに役立てる。						
学習到達目標	学生の身近な日常生活を通して精神的健康について考え、メンタルヘルスに不調のある親やこどもの理解とその具体的な支援の在り方について学ぶ。						
評価方法	出席、授業参加態度、課題等提出物、期末試験成績などから総合的に評価する。						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	メンタルヘルスとは何か			精神的健康の様々な定義と、心の健康を定義することの難しさについて考える。 また、行動の背景にある感情、感情の結果としての行動について柔軟に理解できるようにする。			
2	心の健康を考えることの難しさ						
3	【演習】感情と行動のブレインストーミング						
4	メンタルヘルスの歴史①			精神障害者への差別・偏見・迫害の歴史とその解決のための社会的取り組みについて学び、今日のメンタルヘルスをめぐる状況について考える。			
5	メンタルヘルスの歴史②						
6	メンタルヘルスの歴史③						
7	ストレスと葛藤①			ストレスを感じる仕組み、からだとの相互作用、自律神経の働き、ストレスによる心身症状などについて理解する。			
8	ストレスと葛藤②						
9	ストレスと葛藤③						
10	ライフサイクルとメンタルヘルス①			乳幼児期から老年期それぞれの段階で考えられる危機、ライフイベントとメンタルヘルスについて理解する。また、カウンセリングにおいてクライアントの話を聞き、正確に理解することについて演習を通して理解する。			
11	ライフサイクルとメンタルヘルス②						
12	【演習】クライアントの問題の理解						
13	代表的な精神障害の理解①			人間の持つ基本的な精神機能について学び、代表的な精神障害の特徴や症状について理解する。			
14	代表的な精神障害の理解②						
15	【演習】「問題」とは何か、危機と喪失			支援における「問題」の意味について考える。			
16	代表的な精神障害の理解③			代表的な精神障害の特徴や種類、要因、症状などについて理解し、対応や治療法、近年の状況について学ぶ。			
17	代表的な精神障害の理解④						
18	代表的な精神障害の理解⑤			また、カウンセリングにおいてカウンセラーが行う質問の一般的な基準について、演習を通して理解する。			
19	代表的な精神障害の理解⑥						
20	代表的な精神障害の理解⑦						
21	【演習】良い質問・良くない質問、質問の一般的基準						

22	カウンセリングの基礎知識①	<p>カウンセリングの目的とアプローチの種類、ロジャーズによる来談者中心療法における治療の6条件等カウンセリング技法の基礎について学ぶ。</p> <p>また、クライアントからの質問の意味とその応答の仕方と要素について、演習を通して学ぶ。</p>
23	カウンセリングの基礎知識②	
24	カウンセリングの基礎知識③	
25	カウンセリングの基礎知識④	
26	カウンセリングの基礎知識⑤	
27	【演習】質問への応答、応答の要素	
28	心のケアと治療①	<p>主要な理論モデルと心理療法について学び、心のケアにおける注意点等について理解し、授業の要点の振り返りを行う。</p>
29	心のケアと治療②	
30	まとめ	

授業科目名	教育方法論		担当者	町田洋介							
			実務経験								
教科書	『新しい時代の教育方法 改訂版』有斐閣アルマ	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法				
		2									
		時間数	こども科	2	前期	選択必修	講義				
30											
授業概要	教育方法の定義とその意義について理解し、教育目標・教育内容の設定、教材の活用、実践の構想、実践の評価という教育過程とその相互の関係性についての理解を深める。また、教育・保育現場におけるさまざまな課題を解決する教育方法や学習理論、情報機器とその活用について理解する。										
学習到達目標	教育方法の歴史から、教育方法の意義とその背景にある子ども観・教育観とその思想について理解する。実際の教育・保育活動を計画するにあたって必要な、目標・内容の設定、題材・教材の活用、実践の計画・構想、実践の評価という過程それぞれについて理解する。教育方法や学習理論										
評価方法	レポートおよび筆記試験による										
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など							
1	教育方法とは何か			教育方法とは何かについて理解する							
2	教育方法論の授業で学習する内容の概要について										
3	教育方法の歴史と展望(1) 西洋における教育思想と教育方法			教育思想が教育目的をどのように捉え、その実現のためにどのような教授理論や教育方法が考え出されてきたかについて理解する							
4											
5	教育方法の歴史と展望(2) 近現代の教育思想と教育方法										
6											
7											
8	教育方法の歴史と展望(3) 日本における教育思想と教育方法							日本の教育制度が近代化する過程で、西洋から受容された教授理論や教育方法がどう変化したか理解する			
9											
10											
11	学習とは何か 学習理論とそれに基づく学習方法			教育心理学の知見による学習理論について理解する							
12											
13	学力とは何か 学力の捉え方と高め方			学力のモデルと学力を高める方法について理解する							
14											
15	教育・保育活動の構成について			教育・保育活動のサイクルについて理解する							
16											
17	教育・保育活動における目標と内容の設定										
18											
19	教育・保育活動における教材・環境の設定										
20											

21	教育・保育活動における授業・活動展開の構想	教育・保育活動のシナリオについて理解する
22		
23	教育・保育活動における分析と評価	
24		
25	教育・保育における情報機器の活用	
26		
27	よりよい教育方法を目指して	教育者・保育者としての力量向上に向けた取り組みについて理解する
28		
29	教育方法の課題とまとめ	まとめ
30		

授業科目名	情報発信の技術		担当者	川村浩之			
			実務経験				
教科書	『つくりたい！がカタチになる 学生のためのOfficeスキル 活用&情報モラル』noa出版	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	こども科	2	前期	選択必修	演習
30							
授業概要	演習を通じ、パソコンの基本操作、ワープロソフトの基本操作、表計算ソフトの基本操作、情報発信に関する各ソフトの基本操作学習します。						
学習到達目標	ワープロ・表計算ソフトを中心にその他ソフトの基本操作ができるようになる。						
評価方法	授業態度や提出課題、単位認定試験等を総合的に評価する。						
時数	授業内容		到達目標・学習課題など				
1	Word準備問題作成		全国経理教育協会主催文書処理検定試験3級				
2	【Wordでのチラシの作成】 タイトルと主催者名、本文、詳細内容、ポイントとなる文、見栄え		ビジュアルを工夫して、参加を勧誘するチラシを作成する				
3							
4	【Wordでの応用問題の作成】		部員募集のチラシを作成する				
5							
6	Excel準備問題作成		全国経理教育協会主催文書処理検定試験3級				
7	【Excelでのデータの整理】 数値データの整理、整理したデータの利用、ルールに基づくデータ整理、別シートのデータ利用		成績データを使って情報を整理する				
8							
9	応用問題の作成		ボーリング大会の結果を整理する				
10	【Excelでのデータの資料化】 数値データの整理、グラフの作成、情報をまとめる、見栄えを整える		成績データを使って資料化する				
11							
12	Excelでの応用問題の作成		ボーリング大会の結果を公表する資料を作成する				
13	【Word、Excelでの画像の利用】 インターネット検索による画像取得と注意点、画像のレイアウトオプション、画像のトリミング、画像の背景の透明化、画像等の重なり、画像等のグループ化		インターネットで検索した画像を画像編集アプリでの加工と保存を体験する				
14							
15							
16	【テキストボックス等での文書作成(応用)】 余白の調整、テキストボックスの挿入・文字設定・塗りつぶし・枠線 図形の挿入・塗りつぶし・枠線・頂点の編集 揃えと配置		次の文書を作成する ・遠足のお知らせ ・保健だより ・クラスだより				
17							
18							
19							
20							

21		
22	【PowerPointによるスライド作成】 スライド作成の注意点、設定、トピックスに分ける、詳細内容	ライブイベントの提案資料を作成する
23	見栄え、見せ方の工夫、発表の準備	
24	応用問題の作成	個人情報に関するプレゼンテーション資料を作成する
25	【総復習 WordとExcelを利用した文書作成】	以下の文書を作成する ・0歳児保育経過の表作成 ・手書きをするための指導案の枠 ・PCで入力する指導案「ことり組のプール活動」 ・実習生が担当する中心活動
26	表や表を含んだ文書を作成するとき、二つのソフトを使い分けるポイント	
27	計算機能の有無 長い文章の有無 行間隔のコントロールの必要性	
28		
29	レポート作成の流れとテーマ決定	レポート作成の注意点を説明する
30	その他の情報発信方法	ブログも含めた発信方法を体験する

授業科目名	造形表現論		担当者	芳賀哲			
			実務経験				
教科書	『保育をひらく造形表現』萌 文書林	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	こども科	2	前期	選択必修	講義
15							
授業概要	「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」等をふまえて、造形表現を理論的に学び、子どもとの関わりの中で展開する方法を探る。						
学習到達目標	造形評点の重要性を知り、子どもの気持ちにかなった働きかけが出来るようになる						
評価方法	レポート課題および期末の筆記試験						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	造形表現とは何かを考える			自ら、心に残っている造形体験を発表する			
2	現代の幼児の育つ環境と造形教育の役割について考える			現代社会における造形教育の重要性を知る			
3	子どもの絵の発達について学ぶ			子どもの絵の発達プロセスを知る			
4	絵を描くことへの導きについて考える			模擬指導を体験し、よりよい働きかけを知る			
5	「つくって遊ぶ」を体験し、働きかけを考える						
6	造形あそびの楽しみについて学ぶ			子どものひらめきに寄り添い、援助でけるようになる			
7	造形の構成と色彩について学ぶ			構成と色彩の基本がわかる			
8	モダンテクニックについて学ぶ			モダンテクニックの種類と子どもへの応用方法がわかる			
9	立体表現(紙と粘土)について学ぶ			幼児の立体表現はどこまで可能かを知る			
10	美術(絵画)の歴史(ルネッサンスまで)を学ぶ			この時代における、興味を惹く作品とその作者について調べる			
11	美術(絵画)の歴史(印象派まで)を学ぶ						
12	美術(絵画)の歴史(近代)を学ぶ						
13	美術教育の歴史について学ぶ			世界と日本の美術教育の流れがわかる			
14	造形活動の環境づくりについて学ぶ			環境づくりや導入の方法がわかる			
15	講師のものづくり体験から、造形表現を考える			作品を生み出す方法を知る			

授業科目名	保育教材研究		担当者	大友美悠希			
			実務経験	乳児院で保育士として勤務経験がある			
教科書	資料配付	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	こども科	2	後期	選択必修	演習
30							
授業概要	教材の選定、準備、活用の際に必要となる、素材や道具への理解、子どもがそれに取り組むときに生じる困難や味わう経験についての理解を高めるための着眼、試行、探求の方法を実際の作業を通して具体的に学ぶ。						
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教材研究を行い、体験を通して教材に対する知識理解を深める。 ・保育における教材などの作成と活用、環境構成や実際に保育を展開することができる技術を実践的に習得する。 						
評価方法	出席状況、授業内演習の取り組み、課題提出等による総合評価。						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	<さまざまな視覚的保育教材を知る> ①エプロンシアター、手袋シアター ②スケッチブックシアター、しかけ絵本、かわり絵本			<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが喜ぶ視覚的教材にふれる。 ・保育に取り入れるイメージを持ちながら、子どもと楽しめる視覚的教材を考える。 			
2							
3	○オリジナルの視覚的保育教材を作る			<ul style="list-style-type: none"> ・デザイン、ストーリーや絵画構成について計画し、子どもが喜ぶ教材を丁寧に作る。 			
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10	○作成した視覚的保育教材を使った保育を考える			<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの反応を想像し、演技方を工夫しながら、作成したものを適切に使用できる。 			
11							
12							
13	<身近にあるものを使った手作り玩具について考える> ○絵本「びゅんびゅんごまがまわったら(福音館)」から考える			<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが遊びの中で体験する内容について絵本を通して理解する。 ・手作り玩具にふれながら、教材研究の重要性に気付く。 			
14							
15							
16	○身近なものを材料にして玩具を作成する。			<ul style="list-style-type: none"> ・これまで身に付けた知識や技術をもとに、想像を膨らませながら、手作り玩具の計画、作成、遊びの実践、振り返りを行う。 			
17							
18							
19							
20							
21							

22		
23	<子どもの作品作りを考える>	・保育における壁面製作、子どもの作品展示などの意義と教育的効果について理解する。
24	○壁面製作、季節の製作、絵本を題材にした作品などの意義と効果	
25	○子どもの作品を取り入れることを想定した壁面を作成する。	・子どもの発達や環境構成等を踏まえて内容を考え、作成する。
26		
27		
28		
29		
30		

授業科目名	保育実習Ⅱ(保育所)		担当者	伊藤基・大友美悠希			
			実務経験	保育所で保育士として勤務経験がある			
教科書	『幼稚園・保育所実習 指導計画の考え方・立て方』萌文書林、『教育・保育実習実技ガイド(保育実践シリーズ)』ひかりのくに	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	こども科	2	後期	選択必修	実習
90							
授業概要	「保育実習Ⅰ(保育所)」での学びを踏まえ、保育実践力を身につける。観察・記録・援助・関わり方を総合的に学び、指導計画の理解や指導案作成、記録に基づく省察等との関わりにおいてよりよい環境構成のあり方を習得する。保育士の役割と職業倫理を学び、自己課題を明確にする。						
学習到達目標	①保育所等の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。②子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して保育の理解を深める。③保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について実際に取り組み、理解を深める。④保育士等の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結び付けて理解する。⑤保育士等として自己の課題を明確化する。						
評価方法	評価票をもとにした実習施設の評価と巡回指導者評価の総合評価とする。						
時数	授業内容			到達目標・学習課題など			
1～3	<p>保育実習Ⅰ(保育所)での学びを踏まえ、「保育の総合的理解」「個人差に応じた保育のあり方」「子育て支援について」等、学生の興味・関心を実習課題として取り入れた内容となる。</p> <p><参加・部分実習> ・実習Ⅰでの経験を踏まえながら、担当保育士等の指導のもとに積極的に参加する。</p> <p><部分実習> ・異なる時間帯の部分実習を3回程度、指導計画を立てて実践する。 例:「朝の集まり」「クラス保育」「昼食から午睡まで」「午睡からおやつまで」など</p> <p><全日実習> ・1日の指導計画を立てて、できる範囲内の時間帯の指導・援助を担当し、保育士等の支援のもとに実践する。 ・全日実習終了後は、反省会を通して、自身の不足部分や良い部分を明確にし、今後取り組まなければならない新たな課題を見出す。</p>			<p>保育所等の保育を実践し、個性に応じて適切な保育ができる保育士等として必要な資質・能力・技術を習得する。</p> <p>子どもをもつ家庭の福祉に対する理解を深め、子育てを支援するための能力を養う。</p>			
4～6							
7～9							
10～12							
13～15							
16～18							
19～21							
22～24							
25～27							
28～30							
31～33							
34～36							
37～39							
40～42							
43～45							
46～48							
49～51							
52～54							
55～57							
58～60							

61～63	
64～66	
67～69	
70～72	
73～75	
76～78	
79～81	
82～84	
85～87	
88～90	

授業科目名	保育実習指導Ⅱ		担当者	伊藤基・大友美悠希			
			実務経験	保育所で保育士として勤務経験がある			
教科書	『幼稚園・保育所実習 指導計画の考え方・立て方』萌文書林、『教育・保育実習実技ガイド(保育実践シリーズ)』ひかりのくに	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	こども科	2	後期	選択必修	演習
30							
授業概要	「保育実習Ⅰ」を踏まえ、「保育実習Ⅱ」の事前事後指導を行う。事前指導では、実習の意義や目的、指導案の意義や役割、指導案の形成を確認する。観察・記録・自己評価を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。事後指導では、保育を振り返り自己課題を明確にする。						
学習到達目標	・既習の科目で習得した知識や技術を基礎として、身に付けた知識や技術を再確認しながら実習準備を行う。 ・実習計画、観察、実践、記録、評価の方法や内容について理解を深める。 ・実習事後指導を通して実習の反省と自己評価を行い、新たな課題の克服を目指す。						
評価方法	保育実習(保育所)の事前指導・事後指導に関する提出物や取り組み状況、課題等による総合評価。						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	1. 保育所実習の目的とその内容・実習生の心得 ・実習形態と準備、オリエンテーションについて			<ul style="list-style-type: none"> ・実習の目的や意義、保育所・保育士の役割などを再確認し、学ぶべき課題を明確にしたうえで、自身の目標を立て実習事前準備等を行う。 ・保育所等の保育を実践するうえで必要となる技術の再確認や教材研究を行う。 			
2							
3	2. 子どもたちが喜ぶ「自己紹介」を作ろう ・スケッチブック、エプロンシアター、ペープサートなど 様々な教材を使った自己紹介を考え制作する。						
4							
5	3. 先輩たちの実習エピソード ・実習中の嬉しかったことや困ったことを参考に自己の特技や課題を明確にし、事前準備を行う。						
6							
7	4. 年齢別・保育のポイント ・0歳から6歳までの子どもの発達の特徴と、あそびの特徴、それに伴う保育のポイントを年齢別に再確認する。						
8							
9	5. 子どもの発達とあそび ・各年齢毎のあそび ・音楽あそび、造形あそび、運動あそびなど						
10							
11	6. 指導案作成のポイント・園の方針や全体的な計画との関係性について ・各項目欄の記入ポイント ・部分実習の指導案作成について ・全日実習の指導案作成について						
12							
13							
14							
15	<実習事前準備> ・各実習施設、個人の課題に合わせた個別指導を行う。			<ul style="list-style-type: none"> ・個別指導のもと、実習までに必要な事前準備を行う。 			
16							
17							
18							
19							
20							

21	<p>実習事後指導・実習報告会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習お礼状の作成と振り返り ・実習で行った内容・反省事項・学んだことなどをまとめ各自発表をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現場での実体験から、保育士を目指すうえで必要となる自己の課題を明確にし、克服できるようにする。
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28	<p><実習後の振り返り></p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習全体を振り返った自己評価と今後の課題 ・就職に向けて 	
29		
30		

授業科目名	教育実習		担当者	工藤愛美・阿部美帆			
			実務経験	保育所で保育士として勤務経験がある			
教科書	『教育・保育実習に役立つ部分実習指導案集』萌文書林	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		4					
		時間数	こども科	2	前期	選択	実習
	180						
授業概要	学校で学んだ知識や技術を基礎として、幼児教育の現場において実際に幼児と出会い触れ合う中で、幼児の行動や考えを具体的に把握する。また、それを通して幼児教育の理論と実践の関係について理解を深める。さらに、個々の知識や技術を総合的に応用する実践能力を養う。						
学習到達目標	①幼稚園等の機能や役割について体験を通して理解する。②幼児についての本質的および具体的理解を深める。③幼児教育者の職務内容や役割について、具体的体験を通して学ぶ。④学んだ領域や教職に関する専門的な知識・理論や技術等を、保育で実践するための基礎を身に付ける。⑤教育という営みの歴史的・社会的意味を理解し、さらに自らの教育間の確立に努める。						
評価方法	評価票をもとにした実習施設の評価と巡回指導者評価の総合評価とする。						
時数	授業内容			到達目標・学習課題など			
1～6	観察実習			1日の流れ・子どもの様子・幼稚園教諭の援助の仕方等を見て学び、これから自身が直接保育するに当たって必要な幼児の実態や保育の実際についての知識を客観的に把握する。			
7～12							
13～18							
19～24							
25～30							
31～36	参加実習			担当教諭の助手的な立場に立ち、その指示に従って保育に参加する。保育の流れの中に入り、担当教諭の意図を理解して、側面からその活動を手伝いながら幼児と接することで、幼児を理解し、保育の仕事に慣れ、保育者としてのあり方を体験的に学ぶ。			
37～42							
43～48							
49～54							
55～60							
61～66	部分実習			観察実習と参加実習で学んできたことや体験してきたことを踏まえて、自ら指導計画を立てて実際に保育を展開する。 1日の保育の流れの中の一部を担当する。(日課となっている活動やその日の中心的活动など)			
67～72							
73～78							
79～84							
85～90							
91～96							
97～102							
103～108							
109～114							
115～120							

121～126	全日実習(責任実習)	<p>観察実習、参加実習、部分実習で学んできたことや体験してきたことを踏襲し、登園から降園までの全保育活動の指導計画を立てて環境を構成し、責任を持って保育を展開する。 また、実施後は振り返りを行い、今後の保育活動に活かす。</p>
127～132		
133～138		
139～144		
145～150		
151～156		
157～162		
163～168		
169～174		
175～180		

授業科目名	教育実習事前・事後指導		担当者	工藤愛美・阿部美帆			
			実務経験	保育所で保育士として勤務経験がある			
教科書	『教育・保育実習に役立つ部分実習指導案集』萌文書林	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	こども科	2	前期	選択	演習
	30						
授業概要	教育実習の意義と目的、実習生としての心構えを学ぶ。また、幼児の発達の特長や発達過程を踏まえ、幼児理解や観察の視点・方法、指導案作成等の習得に努めるとともに、目標を持って実習に臨む態度を育成する。また、実習後、総括と自己評価を行い、自分の課題や努力目標を明確にする。						
学習到達目標	1. 実習に向けて、学習の意義・目的を理解し、保育について知識・技能・態度等を総合的に学ぶ。 2. 実習を終えて、再度、教師の役割を確認する。また、実習での学び・成果を確認し、これからの課題や目標を明確にする。						
評価方法	授業への参加状況、取り組み、授業内課題等の総合評価						
時数	授業内容			到達目標・学習課題など			
1	○実習の意義と目的			・教師の役割や幼稚園教育の基本と特質について学ぶ。			
2	〃			・保育者としての職務に専念する義務や守秘義務などの倫理について学ぶ。			
3	○実習生としての心構え			・実習に臨む姿勢、態度や事前訪問(オリエンテーション)について学ぶ。			
4	〃						
5	○実習日誌の書き方			・教育実習簿の目的と記入内容について学ぶ。			
6	〃			・いくつかの記入事例を参考に、書き方や記入の際の留意点について理解を深める。			
7	〃						
8	○実践演習						
9	〃						
10	〃			・実習に必要な資料を集め、自己紹介、手遊び、読み聞かせ、ゲームなどの教材研究を行う。また、グループワークなどを通して実践力を高める。			
11	〃						
12	〃						
13	○観察・参加・責任実習とその流れ			・各段階の実施形態について確認する。また、各段階における具体的な実習内容と留意点について学ぶ。			
14	〃						
15	○教育課程・長期指導計画・短期指導計画 について			・幼稚園における教育目標を達成するために必要となる計画について再確認する。			
16	〃						
17	○指導案について						
18	・「遊びの指導」における指導案の作成			・指導計画とは何か、指導計画作成の実際について確認し、手遊び、絵本の読み聞かせ、ゲーム等の指導案を作成する。			
19	〃			・幼児の実態等を踏まえた指導案の作成について学びを深める。			
20	〃						

21	〃	
22	○学級担任の役割と職務内容について	・保護者支援や特別な支援を要する子どもへの対応等について理解する。
23	〃	
24	○実習の総括と評価、課題の明確化	・幼児理解に対する学び、保育者の援助活動に対する学び等について振り返りまとめる。
25	〃	
26	○実習報告会	・具体的な事例をもとに、実習での学びを共有する。
27	〃	
28	〃	
29	○これからの自己課題と努力目標について	・自己の実習目標と照らし合わせて自己評価を行い、卒業までの課題や努力目標について具体的に挙げる。
30	〃	

授業科目名	児童館・放課後児童クラブの機能と運営		担当者	伊藤基・町田洋介			
			実務経験	児童館で館長として勤務経験がある			
教科書	『児童館・児童クラブテキストシリーズ:1「健全育成論」、2「児童館論」(第2版)、「安全指導・安全管理」、「ソーシャルワーク』児童健全育成推進財団	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	こども科	2	前期	選択	講義
		30					
授業概要	児童福祉の基本理念「健全育成」の考え方を理解すると共に、児童厚生施設の意義、目的を知り現代の子どもの健全育成上の課題について学ぶ。また、その理念を地域で具現する児童館・放課後児童クラブの機能と運営を理解する。						
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 児童館、放課後児童クラブの機能と運営を理解をする。 生活の場でもある児童クラブの環境整備を理解する。 児童館、放課後児童クラブの現在置かれている問題点を考え、今後の展望について理解をする。 						
評価方法	①期末筆記試験 ②授業最終日の課題レポート						
時数	授業内容			到達目標・学習課題など			
1	オリエンテーション			児童館・放課後児童クラブの機能を理解し、地域における児童館の役割を理解する。			
2							
3	児童福祉法の理念と健全育成			児童福祉法での児童館の位置づけについて理解をする。			
4							
5	健全育成の具体的な内容と遊びの健全育成の意味			健全育成を理解した上で、学童期の「遊び」の重要性について理解をする。			
6							
7	児童館・放課後児童クラブの変遷 ～その源流から現在の状況まで			児童館・放課後児童クラブの成り立ちについて理解する。			
8							
9	児童館・放課後児童クラブの概要と特性			児童館・放課後児童クラブの役割について理解し、地域における児童館の必要性について理解をする。			
10							
11	児童館ガイドラインの内容と児童館に求められる機能①			児童館ガイドラインの内容について、理解を深めて、地域から求められている児童館の必要性について理解する。			
12							
13	児童館ガイドラインの内容と児童館に求められる機能②						
14							
15	放課後児童クラブの「基準」「運営指針」「認定資格研修」			放課後児童クラブの設置基準を学び、専門性が必要とされる資格が必要になった経緯について理解する。			
16							
17	運営管理(法令遵守、子どもの権利、要望・苦情への対応、その他)			児童館での第三者委員会などの設置基準などについて理解する。			
18							
19	安全対策(安全管理・危機管理、防災・防犯、事故防止活動、他)			リスクマネジメントについて理解をする。			
20							

21	児童館・放課後児童クラブの環境構成	施設管理面から、子どもたちが安全に過ごすことができる環境整備について理解をする。
22		
23	児童館・放課後児童クラブにおける障害児支援	障害児児童の受け入れ態勢・配慮事項について理解をする。
24		
25	児童厚生員・放課後児童指導員の職場倫理	コンプライアンスを重視し、職場倫理を明文化することの重要性について理解をする。
26		
27	児童館・放課後児童クラブの課題と展望	児童館・放課後児童クラブの現在の問題点を理解した上で、今後の展望について理解をする。
28		
29	まとめ	児童館・放課後児童クラブの機能と運営についてのまとめ(児童館・放課後児童クラブの重要性についてレポート作成)
30		

授業科目名	児童館・放課後児童クラブの活動内容 と指導法Ⅰ		担当者	伊藤基			
			実務経験	児童館で館長として勤務経験がある			
教科書	『児童館・児童クラブテキスト シリーズ:1「健全育成論」、2 「児童館論」(第2版)、「安全 指導・安全管理」、「ソーシャ ルワーク』児童健全育成推 進財団	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	こども科	2	前期	選択	講義
		30					
授業概要	児童ソーシャルワークをベースとした、児童館・放課後児童クラブの日々の活動の流れとともに、行事の企画、利用者への対応、地域との関わりを学び、児童館・放課後児童クラブの業務の実際を把握する。						
学習到達 目標	<ul style="list-style-type: none"> ・児童及び保護者に関する支援の仕方を理解する。 ・児童館・児童クラブの1日の流れを理解する。 ・地域における児童館・児童クラブの役割と重要性について理解をする。 						
評価方法	①行事の企画立案評価 ②レポート作成・提出 ③期末筆記試験						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	オリエンテーション			現在の児童館の状況と、歩んできた歴史について理解をする。			
2							
3	児童館・放課後児童クラブの1日(週、年)の流れと活動のねらい			児童館と放課後児童クラブの違いについて理解し、仕事の流れについて理解をする。			
4							
5	児童館・放課後児童クラブにおける遊びの環境構成			子どもたちの放課後における「遊び」の重要性について理解すると共に、安心・安全に生活できる環境整備について理解をする。			
6							
7	遊びを通じた支援の実際(プログラム作り、具体的展開、支援法)			具体的な遊びを通じた子どもたちの発達について理解をする。			
8							
9	遊びを通じた児童の健全育成			「遊び」がどのように健全育成に繋がるのか、また、学童期の「遊び」の重要性について理解をする。			
10							
11	児童館・放課後児童クラブにおけるグループワーク			児童館・放課後児童クラブにおけるグループワークについて理解をする。			
12							
13	児童館・放課後児童クラブにおけるケースワーク			児童館・放課後児童クラブにおけるケースワークについて理解をする。			
14							
15	小学生の仲間づくり・居場所づくり			学童期の子どもたちの置かれている現状を理解し、児童館・児童クラブがどのように仲間作りの支援をするか考える。			
16							
17	子育て支援活動			子育て支援サークルなどについて学び、児童館で地域の子育て世代の支援をどのようにアプローチするのか理解をする。			
18							
19	ボランティアの育成・支援			児童館・放課後児童クラブでのボランティアの対応について理解をする。			
20							

21	児童館・放課後児童クラブにおける生活・学習支援	生活の場でもある放課後児童クラブで、子どもたちに対する支援の方法について理解をする。
22		
23	保護者・学校・地域との連携	学校や保育園など、子どもの子育てに関する関係機関と連携をとり、支援の連携について理解をする。
24		
25	子どもたちのニーズに基づいた行事やイベントの企画立案(演習)	地域連携を考えた児童館行事の立案
26		
27	企画発表会、講評	企画の発表
28		
29	まとめ	子どもたちの居場所作りを考えた上での、児童館・放課後児童クラブの重要性のレポート作成
30		

授業科目名	児童館実習Ⅰ		担当者	伊藤基・工藤愛美・大友美悠希			
			実務経験	児童館で館長として勤務経験がある			
教科書	『児童館・児童クラブテキストシリーズ:1「健全育成論」、2「児童館論」(第2版)、「安全指導・安全管理」、「ソーシャルワーク』児童健全育成推進財団	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	こども科	2	後期	選択	実習
		90					
授業概要	児童館・放課後児童クラブで実際に業務を体験することで、一日の流れ、利用者の様子、活動内容、職員の役割を理解する。また、地域との関わりや児童ソーシャルワークの実際について学ぶ。						
学習到達目標	・児童館・放課後児童クラブの一日の流れや、社会における役割などについて理解をする。・利用者と職員の様子などを観察しながら、利用者との関わりについて理解をする。・配慮を要する児童への対応や、支援の仕方について理解をする。・行事の組み立て方や意義を考え、企画の立案・プログラムの進行をする。						
評価方法	評価表をもとにした実習施設の評価と巡回指導者評価の総合評価						
時数	授業内容			到達目標・学習課題など			
1	① 観察実習 ・児童館・放課後児童クラブの一日の流れを理解する。 ・乳幼児親子の受け入れ準備や、開館のための準備(清掃など)を理解する。 ・職員の動きや、利用者に対する声掛けの仕方などについて理解をする。 ・支援を要する児童への対応について理解をする。 ② 参加実習 ・開館準備(清掃等) ・乳幼児親子受け入れ・対応 ・児童クラブ受け入れ・対応 ・自由来館児童(小・中・高校生)受け入れ・対応 ③ 部分実習 ・乳幼児親子対象 乳幼児親子に対する行事の企画立案及び、企画の運営を行う。 * 乳幼児親子行事の中の一部を体験(絵本の読み聞かせ・手遊び・パネルシアターなど) ・小学生対象 小学生を対象とする行事の企画立案及び、企画の運営を行う。 * ゲーム大会やお楽しみ会などの小学生を対象とした行事の立案・運営			児童館・放課後児童クラブの1日の流れを理解し、対象年齢に応じた環境整備について理解を深める。 乳幼児親子への対応や、放課後児童クラブ(自由来館児童を含む)への声掛けや、対応について理解をする。 配慮が必要な児童への対応を学ぶ。 自分自身で企画立案を行い、総合的な評価をし反省を行う。			
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							

21	
22	
23	
24	
25	
26	
27	
28	
29	
30	

授業科目名	児童館実習指導		担当者	伊藤基・工藤愛美・大友美悠希			
			実務経験	児童館で館長として勤務経験がある			
教科書	『児童館・児童クラブテキストシリーズ:1「健全育成論」、2「児童館論」(第2版)、「安全指導・安全管理」、「ソーシャルワーク』児童健全育成推進財団	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	こども科	2	後期	選択	演習
		30					
授業概要	児童厚生施設の意義、目的を再確認し、実習において児童と関わるうえで必要な資質・能力・技能の習得に向けて実践的学習を行う。また、地域に社会に対する理解を深め、連携の方法や保護者への子育て支援についても学ぶ。						
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・実習での目標を明確にして、目標達成のための手段を学ぶ。 ・実際の現場に出る前の心構えをして、現場での役割を明確にする。 ・乳幼児親子・児童などへの支援の仕方について具体的に学ぶ。 						
評価方法	実習事前指導・事後指導に関する提出物や取り組み状況、課題等による総合評価						
時数	授業内容		到達目標・学習課題など				
1	オリエンテーション		実習の目的や意義、児童館・放課後児童クラブの概要などを再認識したうえで、自分自身の目標を立て実習事前準備を行う。				
2							
3	保育実習Ⅰ・Ⅱの振り返りと自己課題の設定						
4							
5	児童館実習Ⅰの意義と目的						
6							
7	児童館の役割と社会的ニーズ						
8							
9	個別援助活動—児童の特性と発達に応じた関りや遊び①		集団に交じれない子どもたちや、配慮が必要な児童へのアプローチの仕方について学ぶ				
10							
11	集団援助活動—児童の特性と発達に応じた関りや遊び②		集団生活における集団遊びの重要性と特性について理解を深める。				
12							
13	子育て支援とその実際		児童館に来館した乳幼児親子へのアプローチの仕方や、乳幼児親子への支援の在り方について理解をする。				
14							
15	子育て支援とその実際						
16							
17	実習目標について		実際の現場に行き、自分が習得したい目標について明白にする。				
18							
19	記録の書き方と活用①		実習中の記録をとるための要点を理解し、記録の書く方を学ぶ				
20							

21	記録の書き方と活用②	
22		
23	実習中の心構え・諸注意 実習持参書類の確認	実習中の声掛けや、挨拶など注意点を理解する。
24		
25	事後指導について	実習をしてみて、自分自身の課題を見直す、そして今後の目標を明確にする。
26		
27	実習報告会と事後指導	
28		
29	まとめ	
30		